

鹿児島大学工学部同窓会

会報
南桜風

Faculty of engineering Kagoshima university

第14号

平成28年3月15日発行

「南桜風」を同窓会ホームページに掲載しています

工学部同窓会では会報「南桜風」を発行し、大学の近況や学科の様子、各部会の活動状況、新卒者の就職・進路先などを紹介しております。また、創刊号からの会報をホームページ（HP）にも掲載し多くの会員の皆様へご覧いただけるようにしました。どうぞご覧ください。

工学部同窓会ホームページ <http://ku-eng.mydns.jp>

会報の郵送が不要の方へのお知らせ

会報は会員の方で住所が判明しているすべての方へ無償で配布しておりますが、皆様のご希望により“郵送は不要”とお申し出された方には次号より郵送を中止とさせていただきます。下記の書式にてFAX・メールでお知らせください。

* メール・FAXでの連絡内容

会報の郵送不要：氏名・住所・卒年・学科

* メールアドレス：dousoukai@eng.kagoshima-u.ac.jp

FAX：099(285)3494

なお、メール・FAXで送れない方は電話にてお知らせください。（FAX番号と同様）

ただし今回メール・FAX・電話にて連絡された方であっても、数年後に郵送の再開を希望される場合はご連絡いただきますと送付いたします。

なお、郵送不要と連絡済みの方にも郵送された場合は、お許しいただきますとともに改めてお知らせいただければ幸甚に存じます。

住所変更の連絡のお願い

現住所が変更になられた際は同窓会にもご連絡ください。同窓会のHP「同窓会名簿の訂正・追記」あるいは電話・FAXにてお知らせください。同窓会より名簿発行などのお知らせをいたします。

住所不明者の調査協力をお願い

同窓会では平成25年度（平成26年3月）に同窓会名簿第15号を発行しました。

発行にあたりましては会員の皆様へハガキにてお知らせすると共に名簿の掲載内容のご意向を伺うなど個人情報観点からも万全を期すよう鋭意努力しております。しかしながら今現在、連絡先の判明しない方が多数おられます。そこで、今回は会報の郵送とともに同期の方で住所が確認できていない方の氏名を明記しております。ご存知の方がいらっしゃいましたら同窓会事務局までお知らせください。

よろしく願いいたします。

ごあいさつ

| | |
|---------------|---|
| 同窓会会長 松 永 洋 文 | 2 |
| 工学部長 渡 邊 睦 | 3 |
| OBより 岡 村 直 行 | 4 |

各学科・専攻の状況

| | |
|-------------|----|
| 機械工学科 | 5 |
| 電気電子工学科 | 5 |
| 建築学科 | 6 |
| 環境化学プロセス工学科 | 8 |
| 海洋土木工学科 | 9 |
| 情報生体システム工学科 | 10 |
| 化学生命工学科 | 10 |

在学生から

| | |
|--------------------------------|----|
| 在 学 生 宇 都 遼 太 郎 | 12 |
| 博士前期 江 口 敬 大 | 13 |
| 博士後期 増 永 卓 朗 | 14 |
| 留 学 生 Muhammad Dinie bin M Zol | 15 |

工学部体育祭

叙勲・受賞

教員の異動

部会だより

| | |
|-------|----|
| 機友会 | 19 |
| 錦水会 | 23 |
| AOI会 | 31 |
| 南窓舎密会 | 36 |
| しらなみ会 | 41 |

稲盛賞・学部長賞他

岸園賞

進路状況

工学部同窓会役員・

部会各支部役員名簿

本部だより

特別寄稿

工学部同窓会学生諸活動

助成金の募集について

編集後記

広告掲載

同窓会名簿第16号延期のおしらせ

工学部同窓会では同窓会名簿を3年毎に作成しております。(但し、平成17年に施行された個人情報保護法に則っての調査を有した為、第13号発行の際は前号から5年後となりました) 通例では次号は平成28年度の作成となるところですが、来る平成32年に鹿児島大学工学部が創立75周年を迎えることから、同窓会名簿も周年事業に合わせての発行に向けて作成・発行を行うこととなりました。

現在、会員の皆様の住所判明率は61%となっております。そこで、次号に向けましてはより判明率を高めるよう、情報の収集を行いたいと考えております。また、作成に関しましては個人調査にて掲載に関する意思の確認を行ったうえで、編集を行ってまいります。

会員の皆様方にはご理解を賜りたく、さらに同窓会名簿第16号の作成につきましては従来に増してのご協力をいただきますようお願いいたします。

なお、その間は毎年会報の発行を計画しております。



い
あ
い
さ
つ

工学部同窓会会長（海士52）
松永 洋文

はじめまして

鹿児島大学工学部同窓会会員の皆様にごあいさつ申し上げます。

平成27年4月から工学部同窓会の本部役員が一新いたしました。

私 第十一代工学部同窓会の会長を務めることとなり、不慣れながら4月から活動を進めております海洋土木52年卒業の松永です。

昭和48年に新設された「海洋土木開発工学科」の一期生、鹿児島県で土木技術者として勤め現在に至っております。

工学部同窓会

工学部の同窓会会長という大きな役割を不安いっぱいの中で引き受けました。所属の「しらなみ会」からの会長就任は初めてで、経験不足は先輩学科の同窓会を頼りながら活動を進めたいと思います。幸いにして工学部の先輩学科は歴史ある学科であり、同窓会組織、活動ともに確立されております。そういう意味では各部会の支援・応援を得られ易しと少し安堵している面もあります。

工学部同窓会の支部としての活動は、大分県支部のみであり他の地域は各部会の支部活動が主体であります。何らかの形で工学部の支部としての役割を見だし、より多くの会員との繋がりを確保できないか検討を進められたらと考えております。

部会との絆・工学部との連携

工学部同窓生の皆様には、日本各地でそれぞれの分野でご活躍のこととお察しいたします。

そして日本各地で部会の支部としての活動が行われ、同窓生が互いの活躍を確認できる場が設けられていることに頼もしさを感じているところ です。

前にも申し上げましたが、工学部同窓会の部会は非常にしっかりした運営・活動が行われており、各学科との結びつきも強くとても良い環境が整えられております。

工学部同窓会としては、確立しております各部会との絆を保ちつつ、各地域の支部等との絆を深め、さらに工学部との連携を発展させることが重要と考えております。

つきましては、先輩・同輩・後輩・皆様からのご意見をいただきたく、お願いいたします。

おわりに

「岸園賞」・「司（つかさ）会」が充実します。

岸園基金に多額のご支援をいただきました。十分な活用にかけてまいります。そして、有効活用方策もさらに広げていけたらと考えております。

また、工学部創立七十五周年事業が準備に入りました。平成32年为目标に皆様への多様なご協力をお願いすることとなります。

重ねて本部へのご意見・ご要望をお寄せくださるようお願いいたします。

不慣れな本部役員ではありますが、フットワーク軽く任期の3年間を頑張ろうと意気込んでおります。会員の皆様方の支援・応援をよろしく願います。

長きに渡り鹿児島大学・理工学研究科・工学部の発展に尽力してこられた福井泰好先生の後を受けて工学部長職に就き、早くも1年が経過しました。

H27年度は国立大学法人における第2期中期目標・中期計画の最終年度で、改革加速期間に設定されています。鹿児島大学においても、学術研究院の設置、共通教育改革など、新しい取組を実施しています。H28年度からは第3期中期目標・中期計画期間に移行しますが、この6年間の間に「強み・特色の重点化」、「グローバル化」、「イノベーション創出」、「人材養成機能の強化」の4つの機能強化に対する改革を積極的に行っていく大学のみ重点支援を行うという方針が提示されています。逆に言えば、旧来の方式に囚われ改革を断行しない大学は、運営交付金の大幅削減など非常に厳しい状況に陥ることになります。

工学部が培ってきた強み・特色は、以下の3点に集約されます。

- 国際的に通用する先進的で分かりやすい教育課程の体系化
- ものづくりに係る技術者養成、地域社会への貢献
- 極めて高い就職率、極めて低い不安定雇用率

これらは上記の機能強化視点を全て含んでおり、維持していくことが不可欠ですが、今後厳しくなる状況の下で工学部が存続・発展するためには、現状維持のみでは不十分であると考え、評議員、副学部長、学部長補佐、事務部長など工学部運営メンバから成る**工学部将来計画ワーキング**において検討を開始しました。まず、長期低落傾向にある入試倍率の回復と第3期中期目標・中期計画期間中に実施する多面的評価・入学後の進路決定（大括り入試）を両立するための構成について素案を纏めている段階です。また、人的リソースが抑制され、かつ共通教育改革における基礎教育科目の学部担当への移行など教員負担が増大する中で、いかにして活力を生み出すかということも重要な課題です。研究面においては、工学部のミッションとして再定義された「環境・エネルギー」、「医療工学」、「防災・減災」に加え、新たに「**農水工連携による新テーマ創出**」を提案し、学長の理解を得て、工学部および農学部長、水産学部長から推薦された委員、計7名による農水工ワーキングを組織し、月1回のペースでテーマ発掘活動を行っています。

工学部の将来を考える上で、同窓会の存在意義は非常に大きいものです。10月に、**工学部創立75周年記念事業委員会**を立ち上げました。委員長は50周年記念事業委員会にも参画した武若耕司教授（海洋土木工学科）で、各学科から学科長と同窓生数名が加わり、同窓会長と連携しつつ、様々な記念事業の企画検討を行っています。

同窓会の皆様のご支援を宜しくお願い致します。



工学部百年の計に向けて

工学部長

渡邊

睦



大学・同窓会への感謝

岡村 直行

情報工学科2007年卒業（平成19年卒業）
京セラコミュニケーションシステム株式会社
東日本ソリューションズ事業部

同窓会の皆様におかれましては、様々な分野でご活躍のことと存じます。

私は、平成19年に情報工学科を卒業後、京セラコミュニケーションシステム株式会社に入社し、これまで多くのシステム構築業務に携わってまいりました。現在は東京港区の事務所にて勤務しております。

大学在籍時は、渕田孝康准教授にご指導いただき、当時の最先端技術であったワンセグ放送に関する研究を株式会社南日本放送様と合同で実施いたしました。渕田准教授をはじめ、先輩・友人の協力を得ながら、四苦八苦して研究を行っていたことを今でも鮮明に記憶しております。

卒業後は現在の会社で主に企業・官公庁向けのシステム設計業務を行っております。これまでに工場の生産管理システム、社内プロジェクト管理システム、顧客管理システム、ERPシステム、経理システムなど、お客様のニーズに沿ったシステム開発・導入を行ってまいりました。微力ながら、お客様の経営・売上げ向上に貢献するという責任のある仕事に従事できたことを誇りに思っております。

私は、在学時はシステムのプログラミングに大変興味があり、携帯アプリやゲームの開発を行うなど、日々、プログラミングに没頭しておりました。大学の講義の1つである「プログラミング演習」には、嬉々として取り組んでいたことをよく覚えています。

しかしながら社会人になってからはプログラミング業務ではなく、上流工程のシステム設計を行っております。当然のことながら、システム設計を行うためには、プログラミングを理解していることが大前提となります。入社してすぐにシステム設計業務を行うことができたのも、在学時にプログラミングに関する知識・経験を培うことができたためであると思います。このような経験を積むことができたのも、多くの先生方・先輩・後輩・友人のおかげであると、大変感謝しております。鹿児島大学の工学部キャンパスには足を向けて寝ないようにしております。

これまで、東京・鹿児島で開催される「錦水会」の総会・懇親会には、何度も参加させていただき、「錦水会」を通して、多くの先輩・後輩の方とお話をさせていただきました。同窓生の方のお話を拝聴しますと「自分の努力はまだまだ足りない」と感じる事が多く、非常に刺激を受けております。また、真摯に相談にのって下さる先輩もおられ、家族や会社同僚には話ができないようなことでも、やはり同じ工学部の人間同士、共通項があるのか、とても有益なアドバイスをいただいております。

同窓会活動を通し、私自身の成長の機会をいただけていることを大変嬉しく思います。同じように、私からも他の同窓生へ刺激となれるよう、今後も研鑽を積みたいと思います。

最後になりましたが、皆様のますますのご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。

また、皆様と同窓会にてお会いできますことを楽しみにしております。北辰斜めを暗記して歌えるように練習しております。

機械工学科

学科長 足立 吉隆

機械工学科では、グローバルスタンダードであり、かつコミュニケーション能力に優れた学部生を育成することを方針としてJABEE認定プログラムの標準基準の教育を行うと同時に、国内はもとより海外とも競争し独創的な研究を通して大学院生を育成することを目指して、活気ある雰囲気の中教育・研究活動に励んでおります。本年11月にはJABEE認定の継続審査を受け、引き続きJABEE認定プログラムのもとで、教育活動を実施する予定であります。H27年7月現在で、学部生437名（内、留学生7名、女子学生14名）、博士前期課程学生105名（内、留学生4名、女子学生4名）が在籍しています。H27年3月をもって、教育にまた工学部長・研究科長として学部・研究科運営に尽力された福井泰好教授（現名誉教授）が定年退職され、H28年3月末日には本学科の卒業生である井手英夫教授が定年退職されます。また、上谷俊平先生および片野田洋先生が教授に、また中尾光博先生が准教授に昇任され、新たに生産工学コースには今年度中に新しく准教授を迎えることになっており、H28年4月からは、合わせて25名の教員体制で学科・専攻での教育・研究活動に取り組む事になっています。建屋の老朽化が進んでいる機械工学科二号棟は、H28年度の改修を目指して、現在計画が進められています。

いま大学はミッションの再定義や、一層の特徴化が求められており、本機械工学科も外部から新しい教員を招くなどして、変革の真只中にあります。一方で、卒業生、旧教員の方々が培ってこられた伝統を大切にしたいという想いも抱きながら、変革と伝統のバランス感覚が重要と考えて学科・専攻の運営に取り組んでおります。

機械工学科がさらに発展し今後も社会に貢献し続けていくには、同窓会会員の皆様方のお力添えが不可欠であります。引き続き変わらぬご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

電気電子工学科

学科長 山本 吉朗

平成27年4月から、社会の変化に対応した教育研究組織づくり、教育課程の編成および学内資源の再配分を全学的な視点で柔軟かつ迅速に進めるために、新たに学術研究院が設置され、教員の所属が大学院理工学研究科から学術研究院理工学域工学系に変わりました。学生の所属は、大学院理工学研究科電気電子工学専攻、工学部電気電子工学科のまま

ですが、各教員は学術研究院に所属してこれらの専攻、学科の教育を「主担当」とする形になりました。

平成28年1月現在、電気電子工学科、電気電子工学専攻を主担当とする教員は、22名です。教員の動向につきましては、平成27年2月に寺井慶和准教授が九州工業大学へ、同3月に秋山雅裕助教が岩手大学へ、五十嵐保隆助教が東京理科大学へ転出されました。一方、同4月には八野智博准教授が教授に昇任され、新たに前島圭剛准教授、甲斐祐一郎准教授、吉田賢史助教が、平成28年1月には渡邊俊夫准教授が着任されました。また、同3月には本学電子工学科卒業生で在職41年の小原幸三教授が定年退職されます。

電気電子工学科は、学部教育プログラムに関して平成17年度にJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受けました。平成22年には継続審査を受審し、現在、平成28年度の継続審査受審に向けて準備を進めているところです。卒業生の皆様からのご意見もいただきながら、継続的な教育改善を進めていく所存です。アンケート調査等もお願いすることになると思いますので、よろしくお願いいたします。

同窓会の皆様には、毎年、「新入生ウェルカムパーティ」や就職に向けての講演会「きばっど会」等、多大なご支援をいただいております。心から感謝いたします。本年度は「きばっど会」の際に、講演者の方々にお願いして、学科のカリキュラムや最近の新しい試み等についてもご意見をいただきました。このように、学生教育のより一層の充実を図り、社会に貢献できる人材の育成に努力してまいります。今後とも変わらぬご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

建築学科

学科長 塩屋 晋一

「日本の南の果ての素晴らしい建築学科を目指して」

昨年9月から建築学科棟が改修工事に入りました。教職員、学生、全員、引っ越して、工学部内に分散して過ごしています。製図室や実験室が使用できず、学生、教員は苦勞しておりますが、学科の将来のためと思い、我慢して頑張っています。改修の設計では、本学科の鯉坂教授（建築家）が、色々と注意を払って頂き、他に類を見ない新生・建築学科棟が完成すると思っています。本同窓会誌が発行される、今年の3月の末には、工事も終わる予定です。楽しみではありますが、また引っ越しをするのも、一仕事です。

一方、本建築学科の教員の構成も変わりつつあります。我が国は、高度経済成長も既に終わり、人口減少と、建物を作る技術の成熟もあいまって、建物を長く使う時代に入っています。新築の住宅・建物が半減する時代が近づこうとしています。近い将来、地方の設

計業界、建設業界も半減し、高度成長期に向けて設立された地方大学の建築学科も、旧来の体制では、当然、生き残りは難しくなることは自明の理です。私立の地方大学の建築学科の一部は廃止も始まっています。

我が国の大学の建築学科は、西洋の先進国に学び、創立されています。我が国は地震国であるため、構造工学が組み込まれています。本学科も、小さいながらも、工部大学校（現・東京大学）の建築学科を形式で、昭和20年に大学の建築学科として創立されています。創立、当初はしばらくの間、構造系・材料系の教員が多いのが特徴でした。

しかし、海外の建築の先進国では、現在、地球環境の視点から環境建築やリノベーション建築および木質建築が席卷しています。ハウスメーカーが殆ど無い国もあります。

地方にある大学の建築学科は、どのように変化すべきかが問われています。大学の教員構成は、即座に改変できるわけではなく、教員の退職や転出を利用して、段階的に10～20年をかけて変化しなければなりません。変化し終えた後、時の流れを捕らえていないと、完全に乗り遅れることとなります。

本建築学科は、「日本の南の果ての素晴らしい建築学科」を目指して、これまで歩んできたと思っております。今年度は小山助教が准教授に昇任しました。今年3月には、本学科の卒業生で、現在、フィンランドのアールト大学（旧フィンランド工科大学）の研究員・講師の鷹野敦君が准教授で着任してくれます。このほか、建築計画系の助教が4月に新たに着任します。下記に新年度の教員構成を紹介します。卒業生の皆様にはどのように見えるでしょうか。今後も教員構成を変化させる機会は来ます。意見・感想を何かの機会にお伝えください。来年度からは新たな体制で学生の教育を行い、物事の本質をとらえ直向きに前に進む学生を育成できるよう、学科として努力して参ります。

卒業生の皆様には、今後も変らぬご支援をお願いいたします。

建築設計系 鯨坂教授（建築家）、柴田准教授（建築家）、増留助教（建築家）

建築計画系 木方教授（建築意匠・建築史）、小山准教授（都市計画）

新任助教（建築理論）

環境建築設計系 鷹野准教授（建築家、環境建築、木質構法）

建築環境系 二宮教授（建築環境）、曾我教授（建築環境）、松鶴助教（建築環境）

建築構造系 本間教授（大空間構造、構造最適化）、澤田准教授（鉄骨構造、建築振動）

塩屋教授（鉄筋コンクリート構造、木質構造）、黒川准教授（建築材料施工）

横須賀助教（大空間構造） 詳細は学科ホームページをご覧ください。

環境化学プロセス工学科

学科長 吉田昌弘

環境化学プロセス工学科は、2015年3月に筒井 俊雄 教授が退職され、2015年4月より名古屋大学より二井 晋 教授が着任されました。現在、学部学生35名を専任教員10名（教授4名、准教授3名、助教3名）で小人数教育を行っております。また研究については、以下の4つの研究グループ体制を維持し、推進しております。

研究グループ体制

環境化学プロセス研究グループ（旧輸送現象講座, 旧単位操作講座）

二井 晋 教授、水田 敬 助教、五島 崇 助教

環境バイオテクノロジー・先端複合材料プロセッシング研究グループ（旧工業物理化学講座）

吉田 昌弘 教授、武井 孝行 准教授

環境反応公が宇研究グループ（旧反応工学講座）

甲斐 敬美 教授、中里 勉 准教授

機能性セラミック材料研究グループ（旧無機材料化学講座）

平田 好洋 教授、鯨島 宗一郎 准教授、下之蘭 太郎 助教

本学科は、教育の質の向上に必ずしも繋がらない現状を踏まえ、JABEE継続認定の申請をやめました。教育の成果を判断するためには、学生自身が資格試験を受け取得できる教育システムを新たに導入する方が定量評価できると判断しました。そこで、公益社団法人 化学工学会が行っている資格制度である「化学工学技士（基礎）」の資格を取得できるような教育プログラムの編成を2014年度の入学生から導入しました。所属学生全員が本資格を取得し、卒業させることを目標に教員一同頑張っております。

小人数学科であるために学生に対して丁寧な指導ができますが、教員の研究に費やす時間は厳しい状況にあります。その限られた時間の中でも数多くの国内外の学会発表、学術雑誌への発表、外部資金の獲得に務めております。最近の教員の際だった成果としては、甲斐 敬美 教授の論文が化学工学会英文誌 *Journal of Chemical Engineering of Japan* において Outstanding Paper Award of 2014（題目「Mechanism of the Initial Phenomena of Defluidization Caused by Switching Fluidizing Gases」）に選ばれ、武井 孝行 准教授の推進している研究（題目「バイオマテリアルとしての工学的応用展開を目指した新規機能性ヒドロゲルの創製」）が、化学工学会研究奨励賞に選ばれました。

化学工学を学んだ学生に対する企業の求人は、好景気や不況の波に影響することなく多い状況です。これも卒業生の皆様が各企業であげられた実績によるものであると感謝しております。南九州の地域産業や全国の企業とも連携した研究を介して、今後も化学産業の

発展のため貢献していきたいと思えます。日本の将来を担う若者を十分に教育して社会に送り出していきますので、卒業生の皆様にはこれまで同様にご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

海洋土木工学科

学科長 安達 貴浩

平成27年度の海洋土木工学科の近況をご報告いたします。まず、平成27年度には人事異動があり、4月1日には、東洋建設株式会社・技術研究所から、審良善和（あきらよしかず）先生が准教授として、また群馬工業高等専門学校より長山昭夫（ながやまあきお）先生が助教として赴任されました。審良先生は、コンクリート工学および土木材料学を、長山先生は海岸工学をご専門とされています。また両先生とも、海洋土木工学専攻の修了生であり、母校への愛着や誇りに基づいて、学科や専攻の発展に大いに寄与していただけるものと期待しています。このような人事異動に伴って、現状のところ、本学科では、教授5名、准教授6名、助教3名、特任助教1名、教務職員2名、事務支援員1名、技術補佐員1名の体制で、教育・研究を推進しています。

また、今年度の特筆すべき学科の取り組みとして、日本技術者教育認定機構（JABEE）の審査を受審したことが挙げられます。本学科では、平成17年よりJABEEプログラムの認定を受けていますが、認定を継続するため、本年度11月に実地審査を受け、6年間の認定継続の内定をいただきました。同窓会の皆さまには、卒業生アンケートや外部評価においてご協力を賜りましたが、卒業生の活躍のために、今後ともご協力をお願い致したいと存じます。

ところで、現在、海洋土木工学専攻の大学院学生が定員を大幅に下回っています（博士前期課程1年生の在籍者数は、定員18名に対し5名）。建設業界に人材を提供する我々の役割は重々承知しておりますが、学生不足により大学が弱体化することは、建設業界にとっても好ましくないと考えます。我々も大学院教育において更なる研鑽を重ねる所存ではありますが、同窓生の方々におかれましては、新入社員の採用等において、ご配慮いただければ幸いです。最後になりましたが、今後とも、ご協力やお力添えをよろしく願い申し上げます。

情報生体システム工学科

学科長 佐藤 公則

情報生体システム工学科の近況についてご報告いたします。平成21年度工学部改組に伴って立ち上げた「情報生体システム工学科」は、早くも6年が経過いたしました。本学科は、学部学生定員80名、博士前期課程学生定員42名と工学部の中でも規模の大きい学科・専攻です。

本学科では、情報処理とネットワークを主とする情報システム工学、知の理解と応用を主とする脳認知工学、ヒトの状態の計測を主とする生体計測工学の3つの教育研究組織を有しております。現在、教授8名、准教授9名、助教7名の教員合計24名の体制で教育・研究を推し進めております。平成27年4月1日には、新たな若手助教の三嶋道弘先生が着任されました。研究に関しては、対外的にも多くの賞を獲得しており、随時、学科・専攻のホームページ (<http://www.ibe.kagoshima-u.ac.jp/>) のトピックスに掲載されておりますのでご覧いただければ幸いです。また本学科は、高専との連携も強化すべく、高専学生のインターンシップ受入や高専学生の研究室見学の実施、高専の先生方との共同研究の立ち上げなど実施しております。

本年は学生へのサービスを充実すべく、学生専用のピアサポート室をオープンいたしました。そのルームへは自由に出入りができ、学生同士のピアサポート、リラックスマルーム、就職資料の閲覧など、パソコンなども完備した使いやすい部屋を提供することができ、早速学生らは、有効に利用を開始しているところでございます。

同窓会の皆様には、学生への教育研究などのご支援を頂き、心から感謝申し上げます。教員が一丸となって、社会に貢献できる人材の輩出に一層努力して参りますので、今後ともご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

化学生命工学科

学科長 隅田 泰生

本学科は物質環境化学コースと生体化学コースの2つのコースに、物理化学、分析化学、環境工学、高分子化学、生物化学、生物工学、免疫学などを専門とする教員によって、教育研究が行われています。大学院化学生命・化学工学専攻のコースに対応して、2つのコースに分けていますが、教育と学科運営は共同で行っております。人事異動としては、本年度8月に、久しぶりの新教員として、本学旧生体工学科を卒業した新地浩之君が助教として採用され、現在の構成は、物質環境化学コースに教授2名（肥後、大木）、准教授5名（吉留、上田、高梨、金子、中島）、助教1名（満塩）の計8名、生体化学コースに

教授3名（隅田、門川、橋本）、准教授1名（山元）、助教3名（橋口、若尾、新地）の計7名となっています。研究を通じた教育を行っており、教員の科学研究費補助金や各省庁の補助金など学部資金の獲得率も高く、また研究を分担する学生・院生も積極的に国内外の学会や論文に成果を発表し、各種の賞を受賞するなど、学科全体として活発に活動しております。また、高い専門知識とそれに基づくデザイン能力、そして「進取の気風」をもって仕事を遂行する能力を身に付けた優秀な人財の輩出を使命として、外部評価としてのJABEE（日本技術者教育認定機構）教育プログラムや学生の就職支援にも注力しております。

卒業生の皆様には、ますますのご活躍をご祈念いたしますとともに、変わらぬご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



在学生から

土木工学と日本の発展

海洋土木工学科 4年
宇都 遼太郎

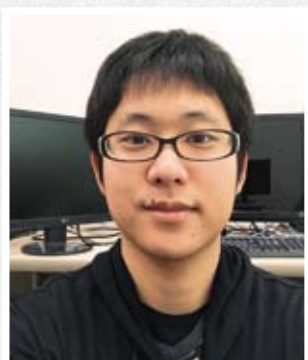
海洋土木工学科に入学して4年の月日が流れ、振り返れば学業・サークル活動・アルバイトなど、非常に充実した学生生活を送ることができました。その中でも、学業においてはただペンを持って講義を受けるだけでなく、土木工学が私達の生活にどのように活かされているのか、社会に出た時にどのような技術者になるべきなのかと、自分の人生を考えさせられるような話を聞く機会もありました。

例えば、海洋土木のOBの方に来ていただいて職場での体験談や、環境破壊と利益追求ではどちらを優先すべきなのかといった土木ならではの倫理観を問う話などがあり、こういった貴重な話や先生方の熱い講義を受ける中で、「土木」に対する考え方が変わった学生は少なくありません。私自身、入学当初の「土木」のイメージは政治献金・環境破壊・3K（危険、きつい、汚い）と決して良いものではありませんでした。しかし、今では私達の生活を支え、地震や津波といった自然の猛威に対抗することができる、重要な学問であると思います。

また、2014年8月に広島市を襲った土砂災害のニュースをきっかけに4年次の研究室配属の際には、自分の研究を誰かのために役立てたい、自分の研究で一人でも多くの命を救いたいという思いがあり、地盤工学研究室を希望し配属されました。研究室に配属されてからは、実際に自分で斜面安定プログラムを作っていく中で、今まで講義で習ってきた内容を活かすことが多く、同時に講義で学べないような知識や経験を得ることができたと感じています。

来年からは大学院に進学し、よりハイレベルな研究成果が求められる環境になりますが、海外留学やインターンシップへの参加、学会での論文発表と多くの経験を通して自分自身の成長に繋がったと思っています。

最後に、近年の土木を取り巻く社会変化は激しいもので、今でも3.11（東日本大震災）の復興という課題が残ったままであり、2020年には東京オリンピックの開催が決定され、土木工学はこれからの日本を支え、発展するために必要不可欠な学問であると言っても過言ではありません。そして土木工学がますます重要な学問となる中で、私たちは社会のニーズに応えることができる技術者にならなければなりません。私自身、まだまだ未熟者ですが、いずれは日本のインフラ基盤を支え、これからの日本の課題である首都直下型地震や南海トラフ沖巨大地震に対応できるような防災技術、そしてこれからの日本の発展に大きく貢献できるような優れた技術者になれるよう日々精進します。



在学生から

大学生活で得たもの

博士前期課程 電気電子工学専攻2年
江口 敬大

私は幼いころからものづくりに興味があり、工学部を選びました。大学に入学した当初は、まだ具体的な将来の目標は無く、ただ漠然とパソコンなどの電子機器に携わるような仕事に就きたいと考えていただけでした。

やりたいことを見つけたきっかけは、プログラミングの授業でした。もともとパソコンを触るのが好きだった私はプログラミングに強い興味を抱きました。その授業の中で、課題のプログラムを自分の力で組み上げ、理想通りの結果を得た達成感、そして自分の考えを実現できるソフトウェアの可能性に魅力を感じ、システムエンジニアを目指すことを決めました。それからは、授業以外でも独学でプログラミング言語を学び、卒論配属ではコンピュータ関連の研究テーマを扱う研究室を希望しました。

卒論から進学後の今日まで、ロボットが自律的に行動を学習することができる強化学習について研究しています。研究では、人のように成長するロボットを目指して、学習スピードと汎用性の改善を行ってきました。そのために、新しい手法や改善案を考え、プログラムによるシミュレーションで検証をくり返してきました。研究は授業とは異なり、明確な答えというものが無く、満足のいく結果が得られないことがしばしばありました。それでも問題点を根気強く探し、改善をくり返しながら乗り越えてきました。

大学院では学部で研究していたことをさらに発展させ、自身の研究成果を学会で発表する機会も頂きました。発表では聞いている先生方に上手く理解していただけないこともあり、聞き手に理解してもらえようような説明の仕方やプレゼンの資料を自分なりに工夫してきました。それでも自分の表現力や説明力が足りないと感じたこともありました。そういつたときは、研究室の仲間から意見をもらったり、先生方にアドバイスを頂いたりして、足りなかった部分を補い、自分自身の成長に繋げてきたと思います。

また大学院に入ってから、同じ研究室の仲間との交流は学部の頃と比べて一層増えました。時にはお互いの研究について意見を交わし、時には一緒に遊びに行くこともありました。そのようなとても充実した研究室生活を送ることができ、大学院に進学して良かったと感じました。社会人になってからも、この学生生活で得た経験を忘れることなく自分を誇れるようなシステムエンジニアを目指して努力していきたいと思っています。



在学生から

物質生産科学専攻 増永 卓朗

私は現在、大学院にて化学工学、その中でも分析化学を専攻し研究をしています。高校時代に化学の有機や無機の反応に魅力を感じ、化学を学ぶために鹿児島大学の応用科学工学科に入学しました。研究室に配属され研究を続ける中でとても面白い分野であると気づき、今まで研究に励んできました。この学生生活で知識や専門性だけでなく人間的に成長することができたと感じています。

私の専攻している分析化学の研究の目的は更なる性能向上により正確なデータを簡便かつ迅速に得ることや、従来法では難しい検出を可能にする方法を実証・開発などです。化学分野の研究だけでも赤外光や紫外可視光、発光、蛍光、吸光を用いた分光法、X線光電子分光、走査型もしくは透過型の電子顕微鏡、核磁気共鳴、ガスまたは液体のクロマトグラフィ、質量分析、表面プラズモン共鳴など、そしてさらに多くの分析法が存在し、目的に応じて使い分けてデータを測定します。化学系の学生は生成物の評価等に使用したことがあるのではないのでしょうか。研究以外でも製造、環境、医療、他に様々な分野に対して分析化学の技術は多く利用されて人々の生活に寄与しています。分析化学は先端科学研究の発展や、人々の生活を支える重要な技術なのです。専門性が高い一方で現代において研究は各専門分野が細分化されており、分析化学から研究の発展にアプローチするためには分析したいその分野に関する知識や経験が無ければ貢献することはできません、そのため、幅広い分野の知識が必要になります。したがって大学院の講義の一つである先端科学特別講義は他分野の専門知識を吸収するためのとても良い機会となりました。直接研究に関係のある分野以外でも、その分野に必要な知識や問題点へのアプローチ、その分野で利用する分析法など、多くを学ぶことができました。

改めて学生生活を振り返ると、本当に多くの協力に支えられていたことを実感します。特に自分の大学・大学院進学を支えてくれた家族、講義や実験、研究などで専門的な知識や技術を教授してくださった先生方には感謝の念に堪えません、また在学中の同期、先輩、後輩すべての方々との出会い多くを学ぶことができたことにも感謝しています。修了後は大学生活で得られた知識や技術、経験を生かして、社会に貢献することで支えてくださった方々に恩返ししたいと考えています。



留学生から

これからの戦い

機械工学科4年

Muhammad Dinie bin M Zol

(ムハマドディニービンエムゾル)

幼いころから日本製の物に囲まれ、日本に憧れ、日本のことが気になりました。なぜ、日本製の物が多く使われているのかを自分の頭の中によく浮かびました。その上、やはり信頼性が優秀な日本製の物がマレーシアだけでなく世界中にも多く使われています。そこで、日本に留学すれば良いのではないだろうかと思っていました。日本に留学できるように高校生時代に一生懸命勉強しました。そのおかげで、2012年に日本に留学し、鹿児島大学で機械工学を学びに来ました。

日本に留学するという事は、私にとって最も挑戦的な経験です。2年間しか日本語を勉強しなかった私が、授業内容や日常会話などの困難を感じました。しかし、優しい周りの日本人のおかげで、今の自分ができました。将来の目標達成を果たすために、どんな厳しい時期でも乗り越えなければならないと思っています。機械工学科を選んだ理由はマシンや物作りが好きで、機械分野で母国のために自分の能力を発揮し、母国の技術レベルを高めたいと思っています。

機械工学では、材料、流体、機械システムなどの分野に分けられ、内容的にはそれぞれ違っていますが、授業受けたりすると、それぞれの共通部分が多くあると自分で気付いてきました。材料に関する科目は内容的に難しいですが、材料開発は楽しいとよく言われましたので、今、材料研究室に所属しています。また、物を作ろうとすると材料が分からなければ作れないと考え、さらに、精密なもの、信頼性が高いものを作るならばやはり材料で決めるとしています。ということで、材料分野は最も重要であると考えられ、材料研究室を選びました。

機械工学、特に材料の知識を深めたいので、大学院に進学することにしました。大学院修了までこれからも全力で頑張りたい。その他、日本にいる間、勉強はやはり大切であると分かっていますが、それだけでなく、日本人や他国の方々との交流も大事にしなければなりません。なぜならば、人と人との関係が大切だし、さらに、新しい技術や材料などの開発にコミュニケーションが必要であるためです。将来は、自分が日本の工学技術の架け橋の役割も果たしたいと考えています。お互いに頑張りましょう。

工学部体育祭

平成27年11月21日 鹿児島大学第二体育館 約150名

工学部体育祭では、参加者がバスケットボールに一生懸命取り組み楽しむことができた。また、学科の枠を超えてきずなを深め合い大変有意義なものになった。

(機械 三角 翔太)



叙勲・受賞 ～おめでとうございます～

受賞

(受賞年月順)

◆県民荣誉表彰・市民荣誉賞 (平成27年11月)

稲盛 和夫 (応化S30)

2015年(平成27年)11月17日 火曜日 社会 22

稲盛氏へ荣誉賞

県と鹿児島市「誇らしい」と喜び

鹿児島県は16日、京セラの稲盛和夫名誉会長(88)に鹿児島市出身の県民荣誉表彰を贈った。稲盛氏は県内に工場を設立するなど産業振興に貢献しているほか、青少年育成に尽力し、今年6月には国際交流を目的とした施設建設のため、県と鹿児島市に計20億円を寄付した。

県庁で伊藤祐一郎知事から表彰状を受け取った稲盛氏は「身に余る光栄に大変恐縮している。ふるさとの皆さま

んに『よく頑張ったな』と褒めてもらえたようで、面はゆいながらも誇らしい気持ちでいっぱい」と喜んだ。

鹿児島市も同日、市民荣誉賞を贈り、森博幸市長が賞状を手渡した。授与式後、稲盛氏は



県民荣誉表彰、鹿児島市市民荣誉賞を受け、伊藤祐一郎鹿児島県知事(左)、森博幸市長(右)と握手を交わす稲盛和夫氏=16日、鹿児島市の県庁(税所陸郎撮影)

故郷の若者たちに対し「今後一番大事なことは、グローバルな人材に育っていくということ。自分も、若者もつと海外に出て行けるよう支援したい」とエールを送った。稲盛氏は鹿児島大学を卒業する23歳まで鹿児島市で過ごし195

9(昭和34)年、京都セラミック(現・京セラ)を創業。破綻した日本航空の会長に就任し、再建を主導した。県、鹿児島市に寄付した20億円は国際交流センター(仮称)の建設費に充てられる。(児玉裕子)

教員の異動

<昇任>

| | | | | |
|-------|-------|-----|--------------|----------------|
| (機 械) | 片野田 洋 | 教授 | 平成27年 1月 1日付 | 機械工学専攻 准教授 |
| (化 生) | 中島 常憲 | 准教授 | 平成27年 1月 1日付 | 化学生命・化学工学専攻 助教 |
| (機 械) | 上谷 俊平 | 教授 | 平成27年 4月 1日付 | 機械工学専攻 准教授 |
| (電 気) | 八野 知博 | 教授 | 平成27年 4月 1日付 | 電気電子工学専攻 准教授 |
| (建 築) | 曾我 和弘 | 教授 | 平成27年 4月 1日付 | 建築学専攻 准教授 |
| (建 築) | 小山 雄資 | 准教授 | 平成27年 6月 1日付 | 建築学専攻 助教 |
| (機 械) | 中尾 光博 | 准教授 | 平成27年10月 1日付 | 機械工学専攻 助教 |

<採用>

| | | | | |
|-------|-------|-----|--------------|----------------------------------|
| (電 気) | 前島 圭剛 | 准教授 | 平成27年 4月 1日付 | 太陽光発電技術研究組合 |
| (電 気) | 甲斐祐一郎 | 准教授 | 平成27年 4月 1日付 | 国立大学法人大分大学工学部電気電子工学科 |
| (電 気) | 吉田 賢史 | 助教 | 平成27年 4月 1日付 | 独立行政法人宇宙航空研究開発機構 |
| (化 生) | 二井 晋 | 教授 | 平成27年 4月 1日付 | 名古屋大学大学院工学研究所 |
| (海 土) | 審良 善和 | 准教授 | 平成27年 4月 1日付 | 東洋建設株式会社総合技術研究所 |
| (海 土) | 長山 昭夫 | 助教 | 平成27年 4月 1日付 | 国立高等専門学校機構 群馬工業高等専門学校 環境都市工学科 |
| (情 生) | 三鴨 道弘 | 助教 | 平成27年 4月 1日付 | 国立大学法人広島大学大学院工学研究院 |
| (化 生) | 新地 浩之 | 助教 | 平成27年 8月 1日付 | 鹿児島大学大学院理工学研究科 |

<転出>

| | | | | |
|-------|-------|-----|--------------|------------------------|
| (電 気) | 寺井 慶和 | 准教授 | 平成27年 2月28日付 | 九州工業大学情報工学研究院電子情報工学研究系 |
| (電 気) | 五十嵐保隆 | 助教 | 平成27年 3月31日付 | 東京理科大学理工学部 |
| (電 気) | 秋山 雅裕 | 助教 | 平成27年 3月31日付 | 国立大学法人岩手大学大学院工学研究科 |
| (建 築) | 境野健太郎 | 准教授 | 平成27年 3月31日付 | 工学院大学建築学部 |
| (海 土) | 三浦奈々子 | 助教 | 平成27年 3月31日付 | 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科 |

<定年退職>

| | | | | |
|-------|-------|----|---------------|--------------------------|
| (機 械) | 福井 泰好 | 教授 | 平成27年 3月31日限り | 昭和53年 5月 1日から平成27年 3月31日 |
| (化 生) | 筒井 俊雄 | 教授 | 平成27年 3月31日限り | 平成14年 6月 1日から平成27年 3月31日 |



機友会

平成27年11月14日(土) 本部総会写真 その1

機友会本部の活動状況

機友会総会は、平成27年11月14日(土)、温泉ホテル中原別荘にて、内門暉史関東支部長(S43卒)、斎藤和幸中京支部長(S47卒)、明石靖夫関西支部長(S42卒)、菅谷清福岡支部長(S49卒)の来賓のもと、参加者44名で、福原稔庶務幹事の司会進行により開催された。総会では、初めに高崎征忠会長(S39卒)の挨拶、議長が選出、上谷俊平会計幹事による会計報告、吉満正美監事による監査報告などが行われ、これらが承認された。また、岸園賞受賞者である下茂忍氏をお招きし、授賞式及び受賞者によるご挨拶が行われた。

懇親会は、余永編集副幹事の司会進行により高崎征忠会長の挨拶により開催された。来賓の足立吉隆機械工学専攻長から来賓挨拶、米倉真一氏(S40卒)による乾杯を行い、杯が酌み交わされた。その後、恩師の浜崎和則先生(S39卒)、明石靖夫関西支部長、内門



平成27年11月14日(土) 本部総会写真 その2

暉史関東支部長、斎藤和幸中京支部長、菅谷清福岡支部長らによる挨拶が行われた。宴会の最後には、谷口康太郎氏（H17卒）による万歳三唱で盛況のうちに閉宴した。

平成27年度機友会各支部の活動を以下のとおり報告する。



下茂忍氏による岸園賞受賞の挨拶

福岡支部の活動状況

平成27年機友会福岡支部総会が去る11月21日(土)、博多駅近くの八仙閣本店において開催されました。出席者は来賓2名（大学より中尾光博准教授、恩師として松村博久名誉教授）と会員22名の計24名で、ここ数年の総会より多くの出席者で賑わいました。

会の冒頭、新支部役員選出と会計報告が議案として提案され、いずれも原案どおり承認されました。その後、松村先生の乾杯の音頭で懇親会に入り、中尾先生から大学の現状報告、松村先生からご自身の近況報告をしていただき、会員の近況報告へと移りました。会員の近況報告では、最近の健康状態や退職後の趣味の話など多種多様な話が飛び出し、中には学生時代の思い出を熱く(?)語る会員もいて、出席者一同大いに盛り上がりました。今回の出席者の中には、総会に初めて出席したという方や久しぶりに出席したという方もいらっしゃいましたが、同じ学科で学んだ仲、皆さんすぐに打ち解けて他の出席者の方と昔話に花を咲かせていました。尚、来年より福岡支部総会開催時期が、従来の9月第1土曜日から11月第1土曜日に変更になる予定です。若い会員の方を含め、これまで以上に多くの会員の方の参加を支部役員一同お待ちしております。



平成27年11月21日(土) 福岡支部総会写真

関西支部の活動状況

「関西支部」の総会は平成27年7月4日(土)に大阪駅前的大阪第一ホテル(大阪マルビル)にて、福井泰好先生、小田美紀男先生の来賓のもと、28名で開催した。

総会は井口慶昭代表幹事(H11卒)の開会の辞で始まり、明石支部長(S42卒)の挨拶、(株)大島造船所の佐伯公範氏(S50卒)の『造船業について』と題した講演会、そして、ご来賓のお二人の先生に鹿児島大学の近況、機友会本部の動向等を含めたご挨拶を頂きました。続いて懇親会では、内村六郎氏(S34卒)の乾杯でスタートし、歓談の後、各テーブル毎の紹介及びスピーチと和やかに進み、次年度幹事の紹介、そして応援歌の『北辰斜め』を唱和し、下茂忍氏(S34卒)の万歳三唱で盛況の内に閉演した。来年度は平成28年7月2日(土)に今年と同じ大阪第一ホテル(大阪マルビル)にて開催予定です。特に昨年、今年と参加人員が急減しておる事から、参加者を増やす意見が多数出される等、活発な意見交換がありました。

また、今年下茂忍氏(S34卒)が「工学部同窓会活動に尽力した者」として、岸園賞に推薦され、見事表彰が決定し、11月の機友会本部の総会で授与されました。関西支部としても大変名誉な事であり、これを機に関西支部同窓会のより一層の活性化に邁進致したいと思います。



平成27年7月4日(土) 関西支部総会写真

中京支部の活動状況

「中京支部」の総会を平成27年7月10日(金)に愛知県知立市の「ホテルクラウンパレス 知立」にて開催しました。機友会本部から福井先生、余先生の御来賓を仰ぎ静岡、三重等の遠方からの出席や本年度入社 of 若手会員の出席もあり総勢58名で盛会しました。

総会は本年度幹事会社のアイシン精機(株)の司会進行のもと、支部長の斎藤和幸氏(S47卒)の挨拶に始まり中京支部会則変更の報告及び承認、会計報告及び承認に続き、御来賓

の先生方より鹿児島大学近況のご報告を頂き、米山國弘氏（S28卒）の発声による乾杯ののち歓談となりました。1年ぶりに交わす挨拶や近況の話題等で親睦を深めたのち会社ごとに近況が報告され大いに親睦を深めることが出来ました。最後は映画「北辰斜めにさすところ」の一部を上映しながら「巻頭言」「北辰斜めに」を合唱し、副支部長青木幸久氏（S49卒）による万歳三唱で盛況のうちに閉宴しました。

中京支部では幹事会を定期的
に開催し中京支部総会の活性化
に向けた運営を行っています。

遠方からの会員や若手会員が参加しやすい環境作り、本部の協力を得ての新卒者への入会の促進などに取り組んでいます。来年度平成28年7月8日(金)に開催予定です。



平成27年7月10日(金) 中部支部総会写真 その1



平成27年7月10日(金) 中部支部総会写真 その2

関東支部の活動状況

平成27年11月1日(日)、三州倶楽部にて機友会関東支部同窓会を開催しました。鹿児島大学大学院理工学研究科・福原稔教授、工学部同窓会会長・今村彬様に来賓としてご臨席賜り、総勢20名が参集しました。

総会では福原教授より、大学、機友会評議会、工学部同窓会に関する現況を伺いました。懇談会では鹿児島芋焼酎を酌み交わしながら、懐かしい皆様の近況や参加できなかった仲間の様子の情報交換をいたしました。リタイア後の皆様の色々な分野での活躍ぶりに感服いたしました。今年は現役会員の参加が得られず残念ではありましたが、来年以降参加者を増やすべく活動を進めてまいります。



平成27年11月1日(日) 関東支部総会写真

錦水会



関東支部総会

◇関東支部◇

平成27年度 関東支部総会

関東支部長補佐 亀澤 和雄

平成27年11月7日(土)有楽町の東天紅東京国際フォーラム店で開催されました。大学から、鹿大名誉教授の廣岡繁先生と電気電子工学科の川越明史先生が出席しました。今回は昭和49年卒業生が同期会を兼ねて関西・九州から多数出席し、総勢40名の参加がありました。総会では、議案に引き続き、先生からの講話がありました。廣岡先生からは、大学の歴史を作ってくられた先生方の写真を交えて話をいただきました。川越先生からは、大学の近況や錦水会と連携で行われる学内行事の報告がありました。総会の後の懇親会は、萩原健支部長（電気昭41卒）の挨拶に続き、今村彬顧問（電気昭29卒）の乾杯の発声ではじまり、参加者の自己紹介、じゃんけん大会、先生からのご挨拶などがありました。最後は、北辰斜めの大合唱、鈴木真一氏（電気電子平25院修了）の閉会の言葉に続き、平田信孝氏（電気昭31卒）の万歳三唱をもって、和気藹々のうちに終わりました。



産学交流会

工学部産学交流会

平成27年9月7日(月)に、新宿オペラシティ 53F Cafe53にて開催されました。本会は、工場見学のために上京した学生と引率教員を迎え、卒業生との交流を行うために開催しているものです。本年は情報生体システム工学科から、加藤龍蔵先生と水野和生先生の引率で、学部2・3年生、大学院の29名の学生が参加しました。

◇東海支部◇

東海支部からの現況報告 ～どげんかせんといかん！～

東海支部長 永野 博

西から東まで日本一長い静岡県を持つ東海支部。愛三岐静福石富の地理的中心の名古屋での支部総会へ遠距離の静岡からの出席が困難な状況にあり「どうかせんといかん。」と、懸念事項となっていたことが、静岡の松山さん、外園さんの協力を得、今年8月静岡地区浜松での支部総会開催を実現でき喜びに浸りました。

支部全体総会は、宗方さん、西さん、木脇さんの大先輩の元気を頂きながら、若人との語らいをはさみ、11月14日に開催いたしました。



浜松の会

○浜松の会

平成27年8月1日(土)に静岡県浜松市のホテルクラウンパレス浜松にて、大学より電気電子工学科の川畑秋馬先生をお迎えして開催しました。

○平成27年度東海支部総会

平成27年11月14日(土)に名古屋市KKRホテル名古屋にて、大学より情報生体システム工学科の大野裕史先生をお迎えして開催しました。



東海支部総会

◇関西支部◇

平成26年度 関西支部総会

平成27年3月21日(土)大阪市の道頓堀ホテルにて、総勢30名の参加者で開催されました。学内から、電気電子工学科 西川健二郎先生と情報生体システム工学科 佐藤公則先生が出席し、佐藤先生にレクチャーをいただき、西川先生には学内の近況をお話いただきました。今回の総会をもって関西支部は役員交代となり、次回から次の新体制で臨むことになりました。支部長：白濱 和人(電気昭58卒)、副支部長：白石 司(電子昭50卒)、庶務幹事：中津川 勇二(電気平3卒)、会計幹事：加藤 三三男(電子昭51卒)、編集

幹事：辻 政信（電気電子平9卒）、監査役：古賀 繁博（電子昭50卒）。



平成26年度関西支部総会

◇福岡支部◇

平成27年度 福岡支部総会

福岡支部長 権藤 正信

平成27年11月28日(土)福岡市の天神テラスカイホールにおいて、大学から電気電子工学科 白樂善則先生にご出席いただき、総勢37名で開催されました。総会は2部構成とし、第1部では権藤支部長挨拶、会員の近況報告、会計報告の承認などが行われました。第2部では白樂先生による大学の近況報告を頂いた後に、最年長の水流忠人さん（S38）の乾杯で、懇親会を始めましたが、今年は白樂先生が来福とのことで、若手の参加者も多く、活気に満ちた楽しい雰囲気での懇親会になりました。また各世代を代表したスピーチでは、「来年は5名以上誘ってきます」「来年も必ず参加します」など、来年度総会に向けて頼もしい声も聴かれていました。最後は例年「北辰斜め」を歌って散会するのですが、今年は蓮尾紀博さん（S56）の歌唱指導のもと、更に「あつい涙」という歌を笑顔で歌うなど、例年以上に盛り上がった総会となりました。



平成27年度福岡支部総会

◇熊本支部◇

平成27年度 熊本支部総会

熊本支部長 小田 博昭

平成27年10月3日(土)熊本市のANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイにおいて、学内から情報生体システム工学科 湯ノ口万友先生にご出席いただき、開催しました。

昨今、参加者が減少していく中、20回目を迎える今年はどうなるのかと当初は心配していたところですが、初参加者2名(うち1名は女性)を含め総勢15名の参加となり、にぎやかな総会となりました。例年と同様に熊本支部として参加者増が課題であります。いかにしたら若い世代の人たちが参加できるのか、支部総会を魅力あるものにするという特効薬はありませんが、地道にひとつひとつの策に取組みながら参加者増を図っていくこととしました。今回は、熊本市外の遠方からの参加者増を目的として交通費等の補助をすることを決めたところです。また、個人情報のセキュリティ管理が厳しいなか、総会の案内方法についても来年実施に向けて検討することにしました。

一方、湯ノ口先生からは大学のニュースなど近況報告を頂くとともに、電気電子棟の改装工事が終わり新築並みに真新しくなったりリニューアル状況写真により報告を頂きました。懇親会は、古賀先輩(S43 電気・S45 院卒)の乾杯によりはじまり、出席者皆さんの近況報告等をいただき、時間のたつのも忘れ、なごやかなひと時を過ごしました。最後には例年のごとく、「北辰斜めに」を声高らかに歌い、来年も参加することを誓いあって散会となりました。



熊本支部総会

◇宮崎支部◇

平成27年度 宮崎支部総会

宮崎支部長 野崎 公憲

第32回錦水会宮崎支部総会は、平成27年10月24日(土)に県庁近くの「和食の橘」において、大学から電気電子工学科の真中浩貴先生にご出席いただき、総勢12名で開催いたしました。総会では、会計報告の承認に続き、役員選出について審議しましたが、出席者の増加対策を取り組む為には引き続き現行体制で取り組まれたいとの2回目の努力目標を戴き、昨年と同様の役員体制となりました。

大学の近況報告として、真中先生からは、パソコン・プロジェクターを利用してナノテ

クノロジーの技術情報、校舎改築の内容や卒業生の就職状況、大学を取り巻く状況等の詳細な報告を戴き、時代の移り変わり、技術の進展を実感できました。

懇親会は、昭和37年卒の福岡隆様の乾杯により始まり、真中先生を含め出席者の趣味、仕事等の近況報告等も交え、時間を忘れ大変楽しいひと時を過ごしました。特に、参加者の趣味の取り組みが多彩で、みなさん「オオー」と大合唱となりました。最後に、宮崎支部恒例の合唱部OBの格調高い音頭により、若い高らふ感情の旋律のもと、「記念祭歌」、「巻頭言」、「北辰斜に」を謳い散会となり、多くの方は二次会へと移動となりました。



宮崎支部総会

◇鹿児島支部◇

平成27年度 鹿児島支部総会報告

鹿児島副支部長 池田 浩二

錦水会鹿児島支部総会は、平成27年10月31日(土)に鹿児島市天文館の「ホテルパレスイン鹿児島」で開かれました。総会は出席者全員で亡師亡友への黙祷で始まりました。続いて、新支部長の吉留進氏が議長となり、議事を進行して前年度の事業・会計報告につづき今年度の事業計画案・予算案が提案され、審議、承認されました。今年度事業計画としては、錦水会の認知度向上のため(1)地元企業の卒業生へのアプローチの他、(2)学内教員との連携のための交流、(3)旧南翔会会員との交流促進などをあげています。その後、新任役員の紹介を兼ねた役員紹介を行い、熱い雰囲気の中で総会を閉会しました。

懇親会は、渡邊陸工学部部長それに昼間に大学構内で開かれた「きばっど会」の講師、九州メタル(株)取締役 権藤正信氏(電気S52卒)とJAXA HTV技術センター博士小林祐希さん(電気子H16卒)の出席を仰ぎ、旧教官や現職教員、学生も含めて総勢45名で開催されました。

乾杯の挨拶で、渡邊工学部長は、これからは大学も同窓会もお互いに一体となって進んでいくことが大事とお話がありました。懇親会は、今村浩氏(電気S62卒)の司会で進められ、きばっど会講師と新任教員のあいさつや現役学生の自己紹介を交えながら、和やかな雰囲気の中で近況の交換や、歓談が進み大いに盛り上がりました。最後に恒例の「記念祭歌」、「北辰斜に」を謳い散会となりました。



◇学内関連◇

新入生歓迎ウェルカムパーティー

平成27年度も鹿児島サンロイヤルホテルの昼食バイキングを利用し開催されました。4月24日は、電気電子工学科の新入生86名、OBと教員11名が参加し、吉留鹿児島支部長と今村浩氏（電気昭62卒）から歓迎の挨拶と講話をいただきました。6月12日は、情報生体システム工学科の新入生80名、OBと教員12名が参加し、葉山会長と小平田直也氏（情報25卒）から歓迎の挨拶と講話をいただきました。



ウェルカムパーティー（電気電子）



ウェルカムパーティー（情報生体）

学生向け講演会「きばっど会」

第13回目となる平成27年度は、10月31日に、情報生体システム工学科棟71号教室で開催されました。講師に九州メタル産業(株)代表取締役社長の権藤正信氏とJAXAの小林裕希氏をお迎えし、これから進路選択や就職活動を迎える学部3年生と修士1年生の学生に向けてご講演いただきました。当日は、電気電子と情報生体の学生の他、教員、OBも参加し約150名が聴講しました。



きばっど会

◇学生等の受賞◇

※受賞日順、学年は受賞当時（＊は発表当時）

- ・ Macro Visentini Scarzanella（外国人客員研究員（日本学術振興会 外国人特別研究員、受入研究者：川崎洋教授）
Medical Image Computing and Computer Assisted Intervention (MICCAI) 2nd International Workshop on Computer-Assisted and Robotic Endoscopy (CARE), Best paper award, Runner up, H27年10月
- ・ 江平 翔（電気電子工学専攻1年、指導教員 山本 吉朗）
平成27年電気学会産業応用部門大会「YPC優秀発表賞」、H27年9月
- ・ 吉松 裕貴（情報生体システム工学専攻2年、指導教員 湯ノ口 万友）
電気学会 電子・情報・システム部門大会「優秀ポスター賞」、H27年8月
- ・ 桑原 達朗（電気電子工学専攻2年、指導教員 西川 健二郎）
Best Presentation Award at The Thailand-Japan MicroWave 2015, H27年8月
- ・ 崎山 裕太（電気電子工学専攻2年、指導教員 西川 健二郎）
Young Researcher Encouragement Award at The Thailand-Japan MicroWave 2015, H27年8月
- ・ 芝 優希（情報生体システム工学科4年、指導教員 小野 智司）
堀田 祐樹（情報生体システム工学専攻H27年3月修了）
MIRU2015 第18回画像の認識・理解シンポジウム「MIRUインタラクティブ発表賞」、H27年7月
- ・ Yogi Anggun Saloko Yudo（博士後期課程3年、指導教員 重井 徳貴）
Best Student Paper Award of The 2015 IAENG International Conference on Computer Science, H27年5月
- ・ 宮島 洋文（博士後期課程2年、指導教員 重井 徳貴）
Certificate of Merit (Student) for The 2015 IAENG International Conference on Artificial Intelligence and Applications, H27年5月
- ・ 畠中 一成（情報生体システム工学専攻2年、指導教員 佐藤 公則）
電子情報通信学会 基礎・境界ソサエティ 「平成26年度バイオメトリクス研究会 学生貢献賞」、H27年4月
- ・ 倉 梨菜（情報生体システム工学専攻2年＊、指導教員 川崎 洋）
森永 寛紀（情報生体システム工学専攻1年＊、指導教員 川崎 洋）
インタラクシオン2015「ベストペーパー賞」、H27年3月
- ・ 岩元 雅太郎（電気電子工学専攻2年＊、指導教員 大島 賢一）
平成26年度電子情報通信学会学術奨励賞、H27年3月
- ・ Mohd Norzali Bin Haji Mohd（博士後期課程3年＊、指導教員 渡邊 睦）
鹿児島市「フレンドシップパートナー」、H27年2月
- ・ 高森 凌（電気電子工学専攻2年＊、指導教員 西川 健二郎）
2014 Excellent Student Award of The IEEE Fukuoka Section, H27年2月

- ・平田 翔（情報生体システム工学専攻1年*、指導教員 塗木 淳夫）
第67回電気・情報関係学会九州支部連合大会「電気学会優秀論文発表賞」、H26年12月
- ・後藤 眞輝（情報生体システム工学科4年*、指導教員 塗木 淳夫）
第22回電子情報通信学会九州支部「学生会講演奨励賞」、H27年1月
- ・秋吉 勇佑（電気電子工学専攻1年*、指導教員 宮島 廣美）
第22回電子情報通信学会九州支部「学生会講演奨励賞」、H27年1月
- ・江口 敬大（電気電子工学専攻1年*、指導教員 宮島 廣美）
第22回電子情報通信学会九州支部「学生会講演奨励賞」、H27年1月
- ・高木 基冬（電気電子工学専攻1年*、指導教員 重井 徳貴）
第22回電子情報通信学会九州支部「学生会講演奨励賞」、H27年1月

AOI会

AOI会の会員の皆様、ご健勝のこととお慶び申し上げます。AOI会関係の近況と建築学科活動報告を致します。

■「AOI建築賞」設立のお知らせ

昨年度鹿児島本部総会にて、AOI会会員同士の交流とお互いの資質向上を目的とし「AOI建築賞」を創設することが決定され、会員による優れた作品を募集することになりました。設計部門と施工部門の2部門において選考を行います。多くの会員の皆様の積極的なご応募を期待します。

応募条件 | 建築作品の設計者・建築主・施工者のいずれかであること。

設計・施工部門では、責任ある立場で関わったAOI会会員とする

応募部門 | 設計部門と施工部門の2部門とする

応募時期 | 毎年1月末

応募方法 | 下記の資料をE-MAILまたは郵送にて事務局まで送付下さい

- 1 応募用紙
- 2 写真（外観・内観合わせて10枚以内）
- 3 図面（配置図・平面図・立面図・矩計図・その他特色を表す図面）
（応募詳細は、建築学科HPに掲載予定）

選考体制 | 建築学科の教官他、「AOI建築賞」選考委員会による審査の上選定

■第1回 AOI建築賞

今年度より新設されましたAOI建築賞は、厳正なる審査の結果下記の方々が受賞されました。また、受賞者の皆様には、平成28年2月6日（土）に行われました、鹿児島AOI会「厄払い会」にて、受賞作品をご紹介頂きました。優れた作品を発表し合うことにより、会員相互で切磋琢磨し技術の研鑽を図って行きたいと考えます。

多数のご応募ありがとうございました。来年も奮ってご応募下さい。

第1回 2016年 AOI建築賞受賞者

| | | |
|-------------|----------------|----------------|
| 難波 友亮（H17卒） | （株）肥後設計 | 「HA house」 |
| 野辺 伸一（H3卒） | （有）クラフト建築設計事務所 | 「鹿屋の家」 |
| 古川 稔（S44卒） | （株）アーキ・プラン | 「鹿児島県立 鹿児島聾学校」 |
| 児玉 豊人（S42卒） | （株）K設計 | 「田中邸」 |

■第8回 AOI会設計優秀賞授賞式

2015.04.07

「AOI会設計優秀賞」は、同窓会により建築を学ぶ有望な在学生の設計活動を励ます主旨のもと、2008年に創設されました。建築設計課題に真摯に取り組み、年間を通して創作・設計活動に秀でた学生を表彰し奨励すること、また、次代を担う若者を応援することを目的としています。

第8回受賞者は、以下の通りです。

第8回 2014年度 AOI会設計優秀賞

1年生 | 坂元 利伎 辻端 彩乃

2年生 | 河村 悠希 本山 翔伍

3年生 | 山下 竜成 有留 麻衣

■建築ナビ「先輩と進路・就職を語る会」

2015.10.03

2002年から開催されている同会は、先輩をお招きし、各職場の状況や経験を聞く会です。建築への興味とその社会的な意義の認識を深めるとともに、第一線で活躍する先輩との交流によって情報交換を図る目的で企画されました。先輩方に職業・社会・人生観を講演頂き、学生にとって極めて有意義なものになったようです。今後も継続して同会を開催できるようにAOI会も支援していく計画でおります。

日時 | 2015年10月3日(土) 14:00~

場所 | 鹿児島大学 稲盛会館

講演 | 松口 龍 平成元年卒

株式会社ミクストメディア 理事・企画開発部長

九州大学 産学連携センター客員教授

講演 | 金子 慶一 平成6年卒業

株式会社飯島建築事務所

講演 | 尾野 智哉(旧姓:西垣) 平成17年卒

プラナス株式会社 一級建築士事務所

3年生前期課題 集合住宅



「洗」 4年 山下竜成
日本で靴を脱ぐ行為はプライベートとパブリックを分ける行為であり、この壁を排除することで新しいつながりを生む。デッキテラスで覆われた敷地に路地を巡らすことで様々なアクティビティを誘発する集合住宅の提案

3年生後期課題 集合住宅



「石垣の家」 4年 有留麻衣
既存の日本家屋によりそうように40人が石垣に住もうということを提案します。日本家屋内は、共有キッチンとして利用されます。食事をともにすることで、住民同士が自然に交流し、支え合う。そんな住まい方を提案します。



建築ナビポスター 制作: 修士2年 石本真戸



左から 金子さん、松口さん、尾野さん



稲盛会館での講演の様子

■2015.09 建築学科棟耐震改修工事スタート

1972年に建設された建築学科2号棟（建築棟）は、今後も長期にわたって使い続けるために、全面改修による耐震補強工事を行っております。1階にギャラリースペースを新設、2階全体が製図室となります。2016年5月頃竣工予定です。お近くにお寄りの際は「新」建築棟にぜひお立ち寄り下さい。

■第58回鹿児島大学建築展

2015.09.19～20

多くのAOI会会員の皆様により受け継いできた建築展が今年も開催されました。建築展は、学生が自主的に企画から製作を行う展示会です。昭和30年頃に開催され、今年で第58回目を迎えました。また、協賛では多くの会員の皆様にご協力頂き、心より御礼申し上げます。

テーマ | 建築の原点「光でやすらぐ空間を作る」

日時 | 2015年9月19日（土）～20日（日）

会場 | 天文館商店街ぴらもーる

主催 | 鹿大建築学科3年生有志

建築展実行委員長 3年 本山 翔伍

伝統のある建築展も58回目を迎えました。今回は『光でやすらぐ空間を作る』をテーマに傘を用いた建築を製作し、天文館ぴらもーる商店街にて展示を行いました。開催までには様々な苦労がありましたが多くの皆様の協力のお陰で無事開催することができました。協賛企業は60社を超えました。ご支援いただきました企業の皆様に感謝申し上げます。

■教員移動

[昇任] 曾我 和弘 教授 平成27年4月1日

小山 雄資 准教授 平成27年6月1日

[採用] 鷹野 敦 准教授 平成28年3月1日

[転出] 境野健太郎 准教授 平成27年3月31日



専門 | 建築環境工学

専門 | 都市計画、住宅政策

専門 | 建築設計、環境建築

転出先 | 工学院大学准教授

■鹿児島本部：厄払い会 2016.2.06

平成28年2月6日に鹿児島市で「厄払い会」を兼ねた鹿児島本部同窓会が開催されました。参加者は46名また、本学の鯉坂先生、柴田先生が出席されております。今年度創設されました。第1回AOI建築賞の受賞式や、厄年4名の厄落としを行いました。これまで日程が不定期でしたが、今年度より2月の第1土曜日に定期開催致します。皆様のご来会をお待ちしております。



■関西AOI会の総会 2015.9.26

平成27年9月26日に大阪市で関西支部の支部総会と懇親会が開催されました。参加者は36名で、本学の澤田先生が出席されております。若い卒業生の参加が少ないようです。最近の卒業生も是非、参加して頂きたいと思ひます。



■AOI会北九州支部総会 2015.12.05

平成27年12月5日に福岡市でAOI会北九州支部の支部総会と懇親会が開催されました。参加者は56名、元教官の土田先生、黒木（康）先生、また、本学の黒川先生が出席されております。12月第1土曜日と決まっておりますので、最近の卒業生も是非、参加して頂きたいと思ひます。



■各支部の年会と日程

| | | |
|---------------------|------------------|-------|
| 鹿児島本部 毎年2月の第1土曜日 | 連絡先：099-285-8299 | 塩屋先生 |
| 大分支部 工学部同窓会として開催 | 連絡先：0977-25-1221 | 和田支部長 |
| 北九州支部 毎年12月の第1土曜日 | 連絡先：092-871-8450 | 守支部長 |
| 関西支部 毎年9月頃 | 連絡先：075-922-0086 | 小林支部長 |
| 関東支部 工学部同窓会として開催 | 連絡先：03-3263-6554 | 楊支部長 |



関西AOI会総会 平成27年9月26日



AOI会北九州支部総会 平成27年12月5日

南窓舎密会

南窓舎密会の部会便りとして、平成27年に開催された、第23回南窓舎密会総会、各支部総会に関する報告を致します。

平成27年10月17日に「第23回南窓舎密会総会および講演会」が開催されました。卒業生を招いての講演会には、H6年応化修了、デンカ株式会社 大島和宏氏、S56年化工卒、西部石油株式会社 環境安全室長 柳 隆夫 氏を講師としてお招きし、以下のような講演タイトルにて貴重なお話をしていただき、現役学生会員および卒業生、約100名の参加者がありました。本講演会は、大学を出て10年以上経過した先輩がどのような仕事をしているのか、どのような学生を企業は望んでいるのか等々、本音の話を聞き、「先輩の話を聞いて就職活動に勝とう」を合言葉にした講演会で、毎年総会と同日に開催しております。また、講演会后、会場を鹿児島市内のジェイドガーデンパレスに移し、総会および懇親会を開催いたしました。

■講演会

会場：鹿児島大学工学部 稲盛会館（14：30-16：20）

講演1. 「高機能性接着剤の開発とソリューション展開」

デンカ株式会社 渋川工場 電子材料研究部 部長代理 大島 和宏 氏

講演2. 「安全・安定操業に求められるもの」

西部石油株式会社 環境安全室長 柳 隆夫 氏

■総会・懇親会（17：00-20：00）

会場：ジェイドガーデンパレス（鹿児島市上荒田町）



- 議題：1) 一般報告、本部報告（庶務幹事）、支部報告（各支部長）
2) 会計報告、平成26年度決算報告（会計幹事）、監査報告（監事）、平成27年度予算案（会計幹事）
3) 南窓舎密会会則の変更について（庶務幹事）

今回の総会では、定例の議題のほか、南窓舎密会会則につきまして、従来の会則にあった現状に一致せず矛盾点を含んだ箇所を修正することが議論され、改訂版では本部幹事会の組織、それぞれの役員の職務が明確に規定され現状に即したものとなりました。今回の会則改正にあたっては、吉留庶務幹事、山本編集幹事に多くの時間を割いてご尽力いただいたことを記し、謝意を示したいと思います。

総会後の懇親会には、染川賢一会長をはじめ、昨年秋の叙勲にて瑞宝中綬章を受章された鎌田薩男先生、前田滋先生、恩師である高橋武重先生、幡手泰雄先生、下茂徹朗先生にご出席していただきました。また、関東支部長 三宅征夫様、東海支部庶務幹事 奥平浩之様、関西支部長 福里隆一様、北部九州支部長 黒田真也様にもご出席していただきました。宴では、その他33名の方にご出席いただき、恩師の先生方には、近況を語っていただきました。また現役学生も多数参加し、同窓生の方々と焼酎を酌み交わしつつ話を弾ませておりました。



また、各支部で支部総会・同窓会が行われました。以下に当日の様子を簡単にご紹介させていただきます。

東海支部

平成27年6月13日に、名古屋駅近郊にて、3年ぶりの南窓舎密会東海支部総会を開催しました。恒例により昼間は染川賢一先生、前田滋先生を交えテニスで汗を流し、夜は、上村浩先生にも合流して頂き総会・懇親会となりました。今回は新たな試みとして、東海地区以外にも一部声掛けした結果、広島、群馬からも卒業生に駆けつけて頂き、若干平均年齢の若返った計24名で大盛り上がりでした。参加者一同、学生時代を思い起こさせるようなハードで楽しいひと時を過ごし、次回へ繋がる充実した一日でした！



関西支部

平成27年9月13日に、大阪梅田弥生会館にて、南窓舎密会関西支部総会・懇親会が開催されました。関西支部会員27名及び本部より染川会長、前田滋先生、幡手泰雄先生において頂き大町副支部長が挨拶し司会を務めました。続いて染川会長が挨拶され、学科、講座、大学院及び同窓会の変遷について説明されました。また、次期支部役員として、福里隆一（応化46年卒）、田中譲次（応化46年卒）、江村秀雄（応化54年卒）、戸井啓介（化工57年卒）、今村恵（応化工H4年卒）、樋渡功（応化工H18年卒）の6名を選出いたしました。懇親会では、司会を徳永昌美副支部長を務め、幡手先生の挨拶と乾杯の音頭にて開宴しました。前田先生へは、授章のお祝い品をお渡しした後、スピーチを賜り、最後に北辰斜めにの合唱で終了しました。和気藹々の懇親会でした。



関東支部

平成27年11月7日に、千代田区アルカディア市ヶ谷で南窓舎密会関東支部同窓会が開催されました。当日の様子を集合写真にて報告いたします。鹿児島からは、染川賢一南窓舎密会会長と昨秋瑞宝中綬章を受章された鎌田薩男先生と前田滋先生にもご出席いただき、ささやかなお祝いことができました。当日は40名近くの同窓生が出席し、先生方との歓談や同期生・先輩後輩との旧交を温めるなど大変な盛り上がりを見せました。会の途中で

は、同窓生からプロ女流落語家になった会員より一席披露などサプライズもあり、最後は七高寮歌「北辰斜に」で終わりにし、二次会へと進みました。



訃報

平成27年12月に恩師であります吉福功美先生がご逝去されました。先生には昭和39年から平成8年まで化学工学科にてご教授頂きました。南窓舎密会として弔電と香典をお送りさせていただきました。南窓舎密会会員一同心よりご冥福をお祈りいたします。

新任教員のご紹介

平成27年度において、2名の先生が南窓舎密会関連の化学生命・化学工学専攻へ新たに着任されました。4月に化学工学コース（環境化学プロセス工学科兼任）へ、二井 晋教授が着任され、8月に生命工学コース（化学生命工学科兼任）へ、新地浩之助教が着任されました。教育研究活動において益々ご活躍いただきますとともに、同窓会活動にもご協力いただきますようどうぞよろしく申し上げます。また、平成28年1月現在の教員配置について、下記に記しておきたいと思います。

教員配置図（平成28年1月現在）

大学院博士前期課程 工系 化学生命・化学工学専攻（学術研究院 理工学域 工学系）

教授：甲斐 敬美、二井 晋（4月着任）、平田 好洋、吉田 昌弘、大木 章、
門川 淳一、隅田 泰生、橋本 雅仁、肥後 盛秀

准教授：鮫島 宗一郎、武井 孝行、中里 勉、上田 岳彦、金子 芳郎、高梨 啓和、
中島 常憲、山元 和哉、吉留 俊史

助教：五島 崇、下之園 太郎、水田 敬、新地 浩之（8月着任）、橋口 周平、
満塩 勝、若尾雅広

工学部 環境化学プロセス工学科 (学術研究院 理工学域 工学系)

教授：甲斐 敬美、二井 晋 (4月赴任)、平田 好洋、吉田 昌弘

准教授：鮫島 宗一郎、武井 孝行、中里 勉

助教：五島 崇、下之園 太郎、水田 敬

工学部 化学生命工学科 (学術研究院 理工学域 工学系)

教授：大木 章、門川 淳一、隅田 泰生、橋本 雅仁、肥後 盛秀

准教授：上田 岳彦、金子 芳郎、高梨 啓和、中島 常憲、山元 和哉、吉留 俊史

助教：新地 浩之 (8月着任)、橋口 周平、満塩 勝、若尾 雅広

しらなみ会

「しらなみ会会長挨拶」

菫 亮 (昭和52年卒)

「南桜風」第13号の発刊にあたり、しらなみ会会員の皆様に一言ご挨拶を申し上げます。平成10年頃をピークに減少し続けてきた公共事業費も、ここ数年下げ止まり、やっと落ち着いてきた感があります。東北の復旧復興の継続、東京オリンピックに向けたインフラ整備、これまで築き上げてきた膨大なストックの維持補修・超寿命化に対する社会的な関心の高まりなどが、土木建設業界に新たな活力をもたらしています。かと思うと、未だ三Kのイメージを払拭しきれず、深刻な担い手不足の中で、人の確保に懸命の努力をしている土木業界でもあります。一つに、新たな勢力として、「土木女子」「けんせつ小町」に大きな期待が寄せられています。しらなみ会にも多くの女性土木技術者がおられます。大いに活躍していただきたいと思います。

さて、しらなみ会では、昨年4月に総会懇親会を開催し、これまでにない多くの方々に参加していただきました。改めてお礼申し上げます。また、昨年は、海洋土木第1期生の松永さんが、工学部同窓会会長に就任されました。しらなみ会からは、初めてのことです。松永会長には工学部全体の同窓会をますます盛り上げていただきたいと思ひますし、我々しらなみ会もこれまで以上に全面的に協力したいと思ひますので、会員の皆様のご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

同窓会活動としては、事業計画に基づき4支部の活動支援や、学生会員の学会等への参加支援、優秀卒論の表彰などを着実に進めてまいります。

最後になりましたが、会員の皆様のますますのご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

「しらなみ会本部活動報告」

しらなみ会本部庶務幹事 木佐貫 浄治 (平成2年卒)

本部における活動を報告します。

しらなみ会同窓会会則に定められている2年に1回開催される総会を平成27年4月18日に鹿児島市内において、「第17回しらなみ会総会」を開催しました。

今回の総会については、東北や関東など遠方等から75名の方に参加していただき開催されました。その中で、平成25年度から実施している「しらなみ会研究活動助成事業※」等の報告や今後2年間の活動方針等について審議し承認していただきました。

引き続き行われた特別講演会においては、安達貴浩教授から「海洋土木工学科における新たな研究分野の取り組み」と題して、最近の学科の取組など卒業生には興味深い内容について講演いただきました。ありがとうございました。

また、懇親会を開催したところ、101名もの方に参加をいただき盛大に開催されました。支部活動報告や新任の先生方の紹介など焼酎が進む中で行われ、最後は出席者全員で円陣を組んで「北辰斜め」の大合唱、しらなみ会の力強さを感じたところでした。

※学生会員の研究成果の向上を支援するとともに同窓会活動に対する理解を深めてもらうことを目的に年間10万円を限度に、学生会員に対して助成を行っています。



本部では年2回定例の幹事会を開催しています。また、しらなみ会のホームページにおいて情報提供を行うとともに、同窓生の方々の御意見や御要望、又は情報提供等も募集しています。下記アドレスに連絡いただければ幸いです。

本部としても、同窓生皆様の意見を参考にさせていただきながら、同窓会活動を盛り上げたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

HP : <http://oce.oce.kagoshima-u.ac.jp/~shiranami/index.html>

情報提供メールアドレス：編集幹事（学内）酒匂（sako@oce.kagoshima-u.ac.jp）

各支部の活動報告

「東北支部活動報告」



懇親会が東北支部の始まりです。

震災復旧・復興事業の増加により、平成24年4月に作成した名簿によると11名の同窓生が東北に赴任、もしくは東北地区担当となられていました。

東日本大震災の前には、3名の同窓生が仙台にいましたが、同窓会活動はおこなっていませんでした。震災後の平成23年9月に北村良介先生から益田浩史さん（昭和56年卒）を御紹介頂き、平成23年11月に益田さん、西岡成さん（昭和56年卒）を中心に、有志により開催した

平成24年4月10日に第1回懇親会（海洋土木復興JV）を開催し、この年には4回の懇親会とゴルフコンペを開催しました。平成25年には東北支部として認めて頂き、現在10名の同窓生で活動をおこなっています。現在のところ、平成24年4月の第1回懇親会からの約4年間で、25回の行事を開催してきました。また、平成25年6月には、東北支部設置のきっかけを作った、北村先生の退職記念懇親会を開催することができました。

平成27年4月から、新山千尋（昭和59年卒）支部長に代わり、山田満秀（平成7年卒）新支部長となりました。今後も、懇親会を年3～4回、ゴルフコンペを年2～3回、年6回の行事開催を目標に、活動していきたいと思えます。

「関東支部活動報告」

関東支部長 黒木 敬司（昭和56年卒）

平成27年11月27日（金）に有楽町の「吉今 魚河岸 有楽町」にてしらなみ会を開催しました。今回は、（平成24年卒）坂井良輔君と（平成25年卒）小原陵君の頑張りにより有楽町と好立地の居酒屋ながら会費4,000円と低価格での同窓会となり、参加者一同大満足で賑やかな「しらなみ会」となりました。参加者は、昭和54年卒2名から平成27年修了までの25名で、これまでになく幅広い年齢層の同窓生が集まりました。加えて、2名の新たな女性会員も参加して、花を添えていただきました。

今回のトピックスは長年関東支部長の座に胡坐をかいていた黒木（小生）が支部長を退き、新たな支部長を選出したことにつきます。新支部長は平成7年卒の瀬戸口喜祥君が満場一致（全員の拍手）で承認されました。「これからは、若者の力を借りながら『しらなみ会』、『工学部同窓会』を盛り上げるために努力する」との所信表明を行い、先輩・後輩ともに大満足の同窓会となりました。皆さん、食事と焼酎に夢中になっていたため、写真撮影を忘れてしまいました。ごめんなさい。

「関西支部活動報告」

平成26年12月12日（金）にしらなみ会関西支部忘年会が開催され、7名の参加がありました。また、平成27年3月17日（金）には、歓送迎会が開催され、12名の参加がありました。

平成27年8月4日（金）には、関西支部の定例会が開催されました。毎年、この時期（海の日）に定例会を開催することになっております。今回の定例会で懇親を深める中、今までにない新しい試みをやってみようという話になり、大学時代の講義をもう一度



再現したイベントを実施することを決定しました。そこで、その場で石田名誉支部長が海洋土木開発工学科の1期生である武若先生に連絡を取り、講師を依頼したところ快諾を得ました。詳細については、後日詰めていくということになり、大変盛り上がった定例会となりました。

「関西しらなみ会 セミナー企画 授業体験会」を平成28年2月6日(土)に大阪市において、武若教授(昭和52年卒)、小山下氏(昭和55年卒)を講師として迎え、開催することとなりました(※平成27年12月執筆時点)。今回、初めての企画ということで戸惑うこともあります。情報交換、人脈形成の場として活用していけたらと考えています。

「福岡支部活動報告」

福岡支部長 橋本 康範(平成7年卒)

平成26年度：平成26年11月28日(金)に、福岡市中央区渡辺通にある「旬菜食房 ぎょくちょう」にて、福岡支部の年1回の総会と懇親会を、約30数名の参加のもと開催いたしました。今回の総会におきまして、これまで永きにわたり福岡支部の運営に尽力されてきました梁木支部長より、後任のご指名を受け、参加の皆様のご承認もいただき、新支部長を拝命いたしましたことをご報告させていただきます。引き続き、よろしく願いいたします。懇親会におきましては、初めて参加される方々もあり、近況や昔話を交えながら、楽しく親交を深めることができ、会の後半には、武若耕司教授もサプライズで登場され、事前に知らされてなかった参加者の方々にとっても、思い出深い1日となったようです。

平成27年度：平成27年11月20日(金)に、定番の開催場所となっております「ぎょくちょう」にて、約30数名の参加のもと、総会と懇親会を開催いたしました。平成27年卒の新メンバーや、現在、海洋土木工学科より水産学部へご異動になられた西隆一郎教授の参加もあり、例年同様、盛大に会が催されました。

他支部でも苦勞されていることと思いますが、転勤や異動もあり連絡先の更新や情報把握



に苦勞しているなか、同期生同士の連絡繋がりなどで参加される方もあることから、皆様からの情報提供は非常に貴重でありますので、何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。(連絡先 橋本のメールアドレス hashimoto.y02@city.fukuoka.lg.jp)

新任教員挨拶



准教授 審良 善和（あきら よしかず）

平成27年4月1日付で理工学研究科海洋土木工学専攻の准教授として着任いたしました。学生時代を鹿児島大学で過ごし、回り道もありながら平成16年3月に鹿児島大学大学院博士後期課程物質生産工学専攻で学位を取得しました。その後、平成24年までの8年間を独立行政法人（現 国立研究開発法人）港湾空港技術研究所の特別研究員および研究官（任期付）として、平成27年までの3年間を東洋建設（株）技術研究所の主任研究員として勤めてまいりました。この

間、とても貴重な経験をさせていただき、また多くの方々からのご指導、ご支援により多くを学ぶことができました。今後も感謝の気持ちを忘れずに、海洋土木工学科の発展のために教育や研究など様々な活動に尽力していきたいと考えております。

専門分野は、建設材料学、維持管理工学、腐食・防食学です。主な研究テーマとしては、腐食問題を中心に、コンクリートおよび鋼構造物の劣化進行メカニズムの解明および劣化予測手法の構築や点検診断、補修・補強、防食技術の高度化を目指した研究を行っています。成熟した社会となりつつある中で、社会資本整備は維持管理の時代に移り変わっています。社会のニーズにあった研究を目標に産・官・学の連携も視野に入れ進めていきたいと考えております。皆様方からのより一層のお力添えをいただければ幸いです。今後ともよろしく願いいたします。

助教 長山 昭夫

平成27年4月1日付で理工学研究科海洋土木工学専攻の助教として着任いたしました長山昭夫と申します。私は平成16年3月に鹿児島大学工学部海洋土木工学科を卒業し、平成16年4月から平成25年3月までは、鹿児島工業高等専門学校技術室の技術職員として勤めていました。また社会人ドクターとして平成17年4月から鹿児島大学大学院理工学研究科博士課程に入学し平成22年3月に学位を取得しました。その後、平成25年4月から平成27年3月まで群馬工業高等専門学校環境都市工学科の助教として勤めていました。専門は海岸工学であり、特に沿岸域の流れ場の数値シミュレーションを防災工学に適用する研究を行っています。また今後発生する可能性の高い巨大地震津波に対する防波堤の津波減衰効果の評価についての検討も行っています。大学での勤務は初めてで戸惑うことも多いですが、海洋土木工学科の先生方、事務の皆さんからサポートをいただき、楽しみながら仕事に励んでいます。また微力ですが海洋土木工学科のために尽力する所存ですのでご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

鹿児島大学稲盛賞

(平成27年度)

平成27年度

| | |
|-------------|-------|
| [機 械 工 学 科] | 内村 直人 |
| [建 築 学 科] | 山崎 大樹 |

鹿児島大学工学部稲盛学生賞

(平成27年度)

平成27年度

| | | |
|-----------------|--------|-------|
| [機 械 工 学 科] | 林田 洸利紀 | 飯山 裕昇 |
| [電 気 電 子 工 学 科] | 甲斐峻大朗 | 井上 恭佑 |
| [建 築 学 科] | 戸村 奈央 | 須永 達也 |
| [環境化学プロセス工学科] | 寺地 晃佑 | 大庵 亨輔 |
| [海 洋 土 木 工 学 科] | 宇都遼太郎 | 高 舒恒 |
| [情報生体システム工学科] | 川田 真人 | 中原 友希 |
| [化 学 生 命 工 学 科] | 鞭馬 奏萌 | 大山 雄滝 |

累積学部長賞・成績優秀賞

(平成26年度)

平成26年度累積学部長賞

| | | | |
|-----------------|--------|-------|-------|
| [機 械 工 学 科] | 上笹貫 滉大 | 神園 陽成 | 橋本 裕貴 |
| | 大園 稔 | 鶴園 弘明 | |
| [電 気 電 子 工 学 科] | 森川 朋美 | 前野真知子 | 成田 暉 |
| [建 築 学 科] | 西田 哲朗 | | |
| [環境化学プロセス工学科] | 谷吉 祐哉 | 宮田 英和 | 外戸口 優 |

| | | | |
|-----------------|-------|-------|-------|
| [海 洋 土 木 工 学 科] | 垣田 菜美 | 小山 彩 | 酒井 都晃 |
| | 赤坂 諒貴 | 末満 駿一 | 片山 滉太 |
| [情報生体システム工学科] | 野崎 裕嗣 | 上鶴 晃平 | 木下 志保 |
| | 渡邊 太一 | | |
| [化 学 生 命 工 学 科] | 松元 拓也 | 松下 由依 | 下津 堯子 |
| | 杠 和樹 | | |

平成26年度累積成績優秀賞

| | | | |
|-----------------|---------|-------|-------|
| [機 械 工 学 科] | 貴島 道拓 | 藤原 嵩 | 勝田 廉弥 |
| | 岡村 拓弥 | 松元 一樹 | 峰 浩希 |
| | 瀬野 秀英 | 園田 大樹 | 山下 哲史 |
| [電 気 電 子 工 学 科] | 出水 直人 | 池田 衣里 | 江平 翔 |
| | 野崎 裕史 | 三村 祐介 | 四元信一郎 |
| [建 築 学 科] | 佐々木真美 | 濱地 加奈 | 高須八千代 |
| | 八木日出美 | 市山 正門 | |
| [環境化学プロセス工学科] | 東 友夏 | 宮地みどり | 廣瀬由貴美 |
| [海 洋 土 木 工 学 科] | 飯ヶ谷翔吾 | 松川 弘幸 | |
| | ブイキャンハオ | 北岡 大典 | |
| [情報生体システム工学科] | 吉村圭一郎 | 桑畑 雄大 | 小路 香織 |
| | 中山 翼 | 山川 康平 | 手打 葵 |
| [化 学 生 命 工 学 科] | 中原 広大 | 一宮 利恵 | 広原 知忠 |
| | 桑水流明日香 | 福崎悠史郎 | 福蘭悠紀人 |

岸園賞

平成21年4月故岸園司前同窓会会長からの寄付により、平成23年に創設されたのが岸園賞です。対象者は工学部の同窓会会員、学生、大学院生で次の各号の一に該当し、拡大幹事会で決定した会員に与えられます。

- 1) 鹿児島大学工学部の名を高めた者
- 2) 工学部同窓会活動に尽力した者
- 3) その他前1) 2) 号と同等以上の表彰に価する行為があったと認められる者

*平成25年8月23日の会則改正により個人のほか団体も対象となりました。

平成26年度受賞者 なし

平成27年度受賞者

○下茂 忍 (機械工学科 S34卒)

ダイキン工業株式会社へ入社後、社内に鹿児島大学卒業生の同窓会「敬天会」を発足させ、55年間毎年開催する。この活動が原点となり機友会関西支部も積極的に参画される。その他、関西鹿児島県人総連合会での副会長、鹿児島県高校同窓会関西連合会の会長も歴任された。これら関西を中心とした支部の活動の活性化がひいては工学部同窓会活動の充実に繋がったとしてその功績・貢献が認められた。

○鹿児島大学工学部同窓会大分県支部グループ

代表者名：大石 喬 (応用化学科 S37卒) 和田正遠 (建築学科 S25卒)

三原久正 (応用化学科 S28卒)

大分県に鹿児島大学工学部同窓会を作りたいとの思いから大石氏、和田氏、三原氏らの同窓会有志により鹿児島大学工学部同窓会大分県支部が昭和56年4月に発足された。今年度で35周年を迎え、継続的な支部総会の開催実績を有する。大分県の工学部同窓会会員相互の親睦を図ることはもとより、毎年鹿児島大学本部からも役員、教員を招くなど本部との交流も積極的に取り組んでこられたことが評価された。

*三原久正氏 平成27年10月ご逝去

平成28年3月卒業及び修了生進路

機械工学科

【平成28年】

(株)A I H O
(株)アイム電機工業
アスク・サンシンエンジニアリング(株)
(株)飯塚製作所
大森機械工業(株)
オザキエンタープライズ(株)
梶原工業(株)
九州旅客鉄道(株)
コトブキ製紙(株)
(株)サムソン
(株)ジィサス
西部電機(株)
(株)ダイフク
太平電業(株) (2名)
(株)テクノスマート
凸版印刷(株)
(株)トラスト・テック
長崎市役所
(株)ニコフ
パナソニック(株)
ファナック(株) (2名)
(株)三井三池製作所
宮崎ガス(株)
村田機械(株)
ヤマハモーターエレクトロニクス(株)
大阪ハイテクノロジー専門学校
鹿児島大学大学院 (47名)

機械工学専攻

【平成28年】

(株)I H I
(株)I H Iプラントエンジニアリング
アイシン・エイ・ダブリュ(株) (2名)
アスク・サンシンエンジニアリング(株)
今治造船(株)
(株)エーアンドエーマテリアル
N O K(株)
オリエンタルモーター(株)
加治木産業(株)

カルソニックカンセイ(株)
九州電力(株)
京セラ(株)
旭洋造船(株)
コトブキ製紙(株)
薩摩酒造(株)
新日鐵住金(株)
ダイハツ九州(株)
(株)ダイフク
太平電業(株)
大和冷機工業(株)
中越パルプ工業(株)
ディーピーティー(株) (2名)
(株)東芝
トヨタ自動車九州(株) (2名)
日本発条(株)
パナソニック(株)
日立アプライアンス(株) (2名)
富士重工(株)
本田技研工業(株)
(株)牧野フライス製作所
三井化学(株)
三菱電機(株)
三菱電機エンジニアリング(株)
三菱日立パワーシステムズ(株) (2名)
(株)安川電気
ヤマハ発動機(株)
リョービ(株)
鹿児島大学大学院

電気電子工学科

【平成28年】

アイコム(株)
アイシン精機(株)
アドソル日進(株)
A N Aシステムズ(株)
(株)アルプスエンジニアリング
アロン電機(株)
インクリメントP(株)
(株)N T Tファシリティーズ
(株)大阪チタニウムテクノロジーズ
王子マテリア(株)

(株)九電工 (2名)
(株)きんでん
(株)コアガス日本
佐世保重工業(株) (2名)
J F E条鋼(株)
(株)システナ
西部電機(株)
ソニーイーエムシーエス(株)
ソニーセミコンダクタ(株)
大王製紙(株)
南国システムサービス(株)
(株)日立システムズ
(株)富士通九州システムサービス
富士通特機システム(株)
三菱電機ビルテクノサービス(株)
(株)ルネサスイーストン
(株)ワコム
鹿児島県庁
九州運輸局
大阪大学大学院
鹿児島大学大学院 (46名)

電気電子工学専攻

【平成28年】

アズビル(株)
いすゞ自動車(株)
S M C(株)
N O K(株) (2名)
関西電力(株)
九州電子(株)
九州電力(株) (2名)
京セラ(株) (4名)
シャープ(株)
スズキ(株) (2名)
住友電設(株)
ソニーL S Iデザイン(株) (2名)
ソニーセミコンダクタ(株) (5名)
ダイハツ工業(株)
帝人(株)
(株)東芝
凸版印刷(株)
(株)名村造船所

日本発条(株)
パナソニック(株) (2名)
ファナック(株)
富士通(株)
(株)富士通アドバンスエンジニアリング
(株)富士通九州システムサービス
富士通九州ネットワークテクノロジーズ(株)
富士電機(株) (2名)
マイクロンメモリジャパン(株)
三井造船(株)
三菱電機(株) (4名)
三菱日立パワーシステムズ検査(株)
村田機械(株)
(株)安川電機
(株)ラック
ルネサスシステムデザイン(株)

建築学科

【平成28年】

藤沢市役所
九州みらい建設グループ
(株)日企設計
(株)銭高組
新菱冷熱工業(株)
(株)大林組
九鉄工業(株)
(株)麻生
谷川建設
横河システム建築
清水建設
(株)大本組
(株)盛本構造設計事務所
大成建設(株)
Y K K A P
清水建設(株)
大和ハウス工業(株)
千葉大学大学院
鹿児島大学大学院 (33名)

建築学専攻

【平成28年】

(株)藤田建築
(株)丹青社
プラナス(株)

(株)J F E 設計
(株)大林組
大成建設(株)
三井住友建設(株)
(株)梓設計
米澤隆建築設計事務所
(株)エスバス建築事務所
(株)竹中工務店
N A P 建築設計事務所
清水建設(株)
鹿島建設(株)
(株)武田建築事務所
(株)エイト日本技術開発
大和ハウス工業(株)
(株)安井建築設計事務所
(株)I N A 新建築研究所
U I D 一級建築士事務所
(株)U G 都市建築

環境化学プロセス工学科

【平成28年】

太平電業(株)
東九州電子工業(株)
鹿児島県
辰和工業(株)
東郷メディキット
ローム・アポロ(株)
新日本科学(株)
熊本国税局
千代田工商(株)
日阪製作所(株)
コーアガス
九電工
濱田酒造
(株)コーソル
ナガオカ
京都大学大学院
九州大学大学院
鹿児島大学大学院理工学研究所

海洋土木工学科

【平成28年】

(株)竹中土木
飛鳥建設(株)

(株)五洋建設
(株)安藤・間
松尾建設(株)
九鉄工業(株)
(株)ダイヤコンサルタント
G & S エンジニアリング(株)
鹿児島土木設計(株)
新日本技術コンサルタント(株)
住友林業ホームテック(株)
(株)A N A メンテナンス
J N C (株)
ホシザキ南九(株)
西日本高速道路(株)
鹿児島銀行
福岡県
佐賀県
鹿児島市
佐世保市
鹿児島大学大学院

海洋土木工学専攻

【平成28年】

世紀東急工業(株)
五洋建設(株)
(株)橋梁メンテナンス
西日本鉄道(株)
八千代エンジニアリング(株)
日立造船(株)
(株)エコー
日本空港テクノ(株)
(株)竹中土木
前田建設工業(株)
コーアツ工業(株)
(株)安藤・間
パシフィックコンサルタンツ(株)
(株)大林組
JFEエンジニアリング(株)
福岡県
和歌山県

情報生体システム工学科

【平成28年】

情報生体システム工学科
ISIDインターテクノロジー(株)

アイ・ティー・エス・ジャパン(株)
インフラテック(株)
NECソリューションイノベータ(株)
株NTTフィールドテクノ
大阪ハイテクノロジー専門学校
株鹿児島データ・アプリケーション
株九州日立システムズ
熊本赤十字病院
株シーエスアイ
九州旅客鉄道(株)
株セントラルソフト
セントラルソフト(株)
デンソーテクノ(株)
東京コンピュータサービス(株)
日本システムズデザイン
富士通(株)
株南日本情報処理センター
三菱電機インフォメーションネットワーク(株)
三菱電機ビルテクノサービス(株)
安川情報システム(株)
ユニアデックス(株) (2名)
株リクルートキャリア
鹿児島大学大学院 (43名)
九州工業大学大学院
熊本大学大学院
筑波大学大学院

情報生体システム工学専攻

【平成28年】

株インターネットイニシアティブ
株VOYAGE GROUP
宇宙技術開発(株)
NECエンジニアリング(株)
NEC ネットスエスアイ(株)
株NTTデータビジネスシステムズ
オムロン(株)
キヤノン(株)
京セラドキュメントソリューションズ(株)
KDDI(株)
株システムクレオ
シスメックスCNA(株)
株ジャパンファーム
ソフトマックス(株)
東京エレクトロン(株)
東京コンピュータサービス(株)

株東芝 (2名)
ドコモ・システムズ(株)
凸版印刷(株)
株トヨタコミュニケーションシステム
日本電気通信システム(株)
農中情報システム(株)
パナソニックITS(株)
株日立公共システム
株日立システムズ
株日比谷コンピュータシステム
ファナック(株)
株富士通九州システムサービス
富士通九州ネットワークテクノロジーズ(株)
富士通テン(株)
富士電機(株) (3名)
株南日本情報処理センター
三菱電機インフォメーションシステムズ(株)
三菱電機インフォメーションネットワーク(株)
三菱電機(株) (2名)
株南日本銀行
株村田製作所
株YPK
北九州市役所
国土交通省九州運輸局

化学生命工学科

【平成28年】

新日本科学
ゼオライト
フジパン
北九州市
化血研
山野井
アウトソーシングテクノロジー
鹿児島銀行
アース環境サービス
ピクオス
富士通鹿児島インフォネット
不二熱学工業
クルニカルパソロジーラボラトリー
バレットグループ
ソフト流通センター
アミューズ
鹿児島大学大学院理工学研究科

化学生命・化学工学専攻

【平成28年】

JX日鉱日石石油基地 (喜入基地)
日阪製作所
三井金属鉱業
ヤマウチ
井原築炉工業
ニチアス
新興プランテック
日本エア・リキード
丸善石油化学
NOK
ヨコオ
京セラ
千代田化工建設
ヤマト電子
YKK AP
鹿屋体育大学
日揮触媒化成
アキレス
ハイテックシステム
宮崎くみあいチキンフーズ
シーシーアイ
ルネサスエレクトロニクス
日本ガス
アルプス技研
鹿児島県環境技術協会
新日本科学
日油
上野製菓
旭有機材工業
ジャパンファーム
生化学工業
リンテック
サクラファインテック

同窓会役員名簿及び部会

平成28年1月現在

| | |
|------|---------------|
| 顧問 | 渡邊 睦 (工学部長) |
| 会長 | 松永 洋文 (海土52) |
| 副会長 | 5部会会長 (次頁) |
| 庶務幹事 | 曾我 和弘 (建築H6) |
| 会計幹事 | 福原 稔 (機械56) |
| 編集幹事 | 木村 至伸 (海土H10) |
| 監事 | 山本 吉朗 (電気62) |
| | 伊藤 博雅 (応化44) |

【評議員】

◆機友会 (機械工学科・機械工学第二学科)

| | |
|--------------|---------------|
| 浜崎 和則 (39) | 米倉 真一 (40) |
| 皮籠石 紀雄 (45) | 福原 稔 (56) |
| 迫 義人 (56) | 大重 俊則 (60) |
| 谷村 和彦 (63) | 江口 之浩 (H1) |
| 上谷 俊平 (特別会員) | 小田 美紀男 (特別会員) |

◆南窓舎密会 (応用化学科・化学工学科・応用化学工学科・生体工学科 (生体機能材料工学コース)・環境化学プロセス工学科・化学生命工学科)

| | |
|------------|------------|
| 鎌田 薩男 (34) | 染川 賢一 (39) |
| 下茂 徹朗 (46) | 大竹 孝明 (52) |
| 吉留 俊史 (60) | 安藤 浩毅 (H2) |
| 伊藤 博雅 (44) | 中島 常憲 (H6) |
| 小幡 透 (H7) | 有水 伸一 (H7) |

◆錦水会 (電気工学科・電子工学科・電気電子工学科・情報工学科・生体工学科 (生体電子工学コース)・情報生体システム工学科)

| | |
|------------|------------|
| 永野 博 (46) | 権藤 正信 (52) |
| 野崎 公憲 (48) | 小田 博昭 (47) |
| 吉留 進 (47) | 白石 巖 (51) |
| 池田 浩二 (51) | 測田 孝康 (63) |
| 川越 明史 (H9) | 重井 徳貴 (H4) |

◆しらなみ会 (海洋土木開発工学科・海洋土木工学科)

| | |
|-------------|-------------|
| 武若 耕司 (52) | 萩 亮 (52) |
| 北崎 義隆 (53) | 新屋 隆浩 (58) |
| 山城 徹 (55) | 三隅 浩二 (57) |
| 濱田 成敏 (61) | 吉川 宏 (H2) |
| 木佐貫 浄治 (H2) | 木村 至伸 (H10) |

◆AOI会 (建築学科)

| | |
|-------------|-------------|
| 末吉 重栄 (S44) | 揚村 固 (S48) |
| 下山 道男 (S55) | 宮城 泰児 (S58) |
| 渡島 秀夫 (H2) | 肥後 潮一郎 (H4) |
| 日野 真琴 (H7) | 川畑 忠行 (H8) |
| 峰元 信明 (H13) | |

工学部同窓会事務局

窪田 玲子 TEL/FAX 099-285-3494
学内TEL/FAX 8317

部会各支部役員名簿

◆機友会

| | |
|-----------|------------------|
| 会 長 | 高 崎 征 忠 (39) |
| 副 会 長 | 皮籠石 紀 雄 (45) |
| 庶 務 幹 事 | 福 原 稔 (56) |
| 会 計 幹 事 | 上 谷 俊 平 (特別会員) |
| 会 計 副 幹 事 | 中 尾 光 博 (特別会員) |
| 編 集 幹 事 | 小 田 美 紀 男 (特別会員) |
| 編 集 副 幹 事 | 余 永 (特別会員) |
| 監 事 | 大 脇 研 二 (44) |
| 監 事 | 大 吉 滿 正 美 (53) |
| 関 東 支 部 長 | 内 齋 藤 和 幸 (47) |
| 中 京 支 部 長 | 明 石 靖 夫 (42) |
| 関 西 支 部 長 | 菅 谷 清 (49) |
| 福 岡 支 部 長 | |

◆錦水会

| | |
|-------------|----------------|
| 会 長 | 葉 山 勝 年 (41) |
| 副 会 長 | 永 野 博 昭 (46) |
| 副 会 長 | 小 田 博 昭 (47) |
| 庶 務 幹 事 | 白 石 巖 二 (51) |
| 会 計 幹 事 | 曲 田 畜 浩 二 (46) |
| 編 集 幹 事 | 池 田 田 信 之 (41) |
| 監 事 | 濱 原 口 俊 幸 (53) |
| 監 事 | 原 田 孝 康 (63) |
| 学 内 庶 務 幹 事 | 川 越 明 史 (H 9) |
| 学 内 会 計 幹 事 | 重 井 德 貴 (H 4) |
| 学 内 編 集 幹 事 | 萩 原 健 人 (58) |
| 関 東 支 部 長 | 白 濱 和 博 (46) |
| 関 西 支 部 長 | 永 野 藤 正 信 (52) |
| 東 海 支 部 長 | 権 藤 正 博 昭 (47) |
| 福 岡 支 部 長 | 小 野 崎 公 憲 (48) |
| 熊 本 支 部 長 | 野 留 進 (47) |
| 宮 崎 支 部 長 | |
| 鹿 児 島 支 部 長 | |

◆AOI会

| | |
|-----------|-----------------|
| 会 長 | 武 田 敏 郎 (42) |
| 副 会 長 | 四 元 俊 男 (25) |
| 副 会 長 | 德 富 久 二 (42) |
| 顧 問 | 前 田 隆 造 (23) |
| 顧 問 | 川 上 隆 道 夫 (34) |
| 庶 務 幹 事 | 塩 屋 晋 一 (57) |
| 会 計 幹 事 | 二 宮 秀 與 (59) |
| 編 集 幹 事 | 増 留 麻 紀 子 (H13) |
| 監 事 | 守 友 和 弘 (41) |
| 監 事 | 真 清 貴 和 (48) |
| 関 東 支 部 長 | 塘 友 直 樹 (41) |
| 関 西 支 部 長 | 小 林 一 彦 (42) |

| | |
|--------|--------------|
| 北九州支部長 | 守 道 明 (42) |
| 大分支部長 | 和 田 正 遠 (25) |
| 宮崎支部長 | 田 中 睦 巳 (43) |

◆南窓舎密会

| | |
|---------------|------------------|
| 会 長 | 染 川 賢 一 (39) |
| 副 会 長 | 安 藤 浩 毅 (H 2) |
| 監 事 | 高 橋 武 重 (39) |
| 監 事 | 田 中 茂 博 (44) |
| 代 表 幹 事 | 下 吉 留 徹 俊 朗 (46) |
| 庶 務 幹 事 | 小 幡 史 透 (H 7) |
| 庶 務 幹 事 | 有 水 伸 一 (H 7) |
| 庶 務 幹 事 | 下 之 園 太 郎 (H15) |
| 会 計 幹 事 | 滿 塩 勝 (H 6) |
| 会 計 幹 事 | 大 竹 孝 明 (52) |
| 会 計 幹 事 | 橋 口 周 平 (H 6) |
| 編 集 幹 事 | 中 島 常 憲 (H 6) |
| 編 集 幹 事 | 山 本 高 師 (53) |
| 編 集 幹 事 | 山 元 和 哉 (H 8) |
| 教 官 評 議 員 | 甲 斐 敬 美 (43) |
| 関 東 支 部 長 | 三 宅 征 夫 (41) |
| 東 海 支 部 長 | 種 子 田 実 郎 (41) |
| 関 西 支 部 長 | 大 町 凱 彦 (34) |
| 北 部 九 州 支 部 長 | 黒 田 真 也 (41) |

◆しらなみ会

| | |
|-------------|-----------------|
| 会 長 | 萩 亮 (52) |
| 副 会 長 | 新 屋 隆 浩 (58) |
| 庶 務 幹 事 | 木 佐 貫 淨 治 (H 2) |
| 庶 務 幹 事(学内) | 山 城 徹 (55) |
| 会 計 幹 事 | 濱 田 成 敏 (61) |
| 会 計 幹 事(学内) | 三 隅 浩 二 (57) |
| 編 集 幹 事 | 山 中 浩 平 (H 2) |
| 編 集 幹 事(学内) | 酒 匂 一 成 (H13修) |
| 監 事 | 北 崎 義 隆 (53) |
| 東 北 支 部 長 | 山 田 滿 秀 (H 7) |
| 関 東 支 部 長 | 瀬 戸 口 喜 祥 (H 7) |
| 関 西 支 部 長 | 大 田 英 司 (H 7) |
| 福 岡 支 部 長 | 梁 木 英 寿 (54) |

◆工学部同窓会大分支部

| | |
|---------|----------------|
| 支 部 長 | 大 石 喬 (応化37) |
| 副 支 部 長 | 福 田 公 則 (電気38) |
| 副 支 部 長 | 清 田 善 之 (建築46) |
| 幹 事 長 | 渡 辺 高 行 (機械49) |

本部 だより

平成26年度 工学部同窓会・懇親会 —評議会・講演会—

工学部同窓会庶務幹事 曾我 和弘
3年に一度の工学部同窓会総会・懇親会が2015年3月7日(土)にホテルパレスイン鹿兒島にて開催されました。講演会に36名、総会に44名、懇親会では総勢51名が集い、各部会の活動状況、工学部や同窓会の将来像などについて大いに語り、親睦を深めることができました。

当日は、16:00からの評議会に続いて、16:50からの中山茂鹿兒島大学名誉教授による講演会が開催されました。演題は、「量子アルゴリズムと薩英事情」というもので、量子力学の原理を使って複雑な計算問題を少ない計算量で解く方法が解説されました。また薩摩スチューデント150周年を記念して、中山先生が英国で学ばれた量子コンピュータや諸事情についてお話しされ、

大変興味深い講演でした。

その後、17:50から総会が開催されました。総会では、過去3年分の一般報告、編集報告、会計報告、監査報告が行われ、満場一致で承認されました。また、役員の変更も行われ、新役員として会長に松永洋文氏(海士52年卒、新任)、庶務幹事に曾我和弘(建築H6年卒、新任)、編集幹事に木村至伸氏(海士H10年卒、新任)、会計幹事に福原稔氏(機械II56年卒、新任)が提案され承認されました。また監事としては学内監事に山本吉朗氏(電気62年卒、新任)、学外監事に伊藤博雅氏(応化44年卒、新任)がそれぞれ承認されました。

総会に引き続き写真撮影が行われた後、18:30から懇親会が開催されました。会長の今村彬氏(電気29年卒)、工学部長の福井泰好先生のご挨拶では、工学部ならびに同窓会に対する熱い想いが語られました。その後、歓談となり部会や学科の垣根をこえた楽しい懇親会となりました。また参加者全員で「北辰斜めに」を大合唱した後、最後に工学部副学部長の渡邊陸先生より工学部の今後の発展に向けた力強いご挨拶をいただき、盛会のうちに閉会となりました。



平成26年度 鹿兒島大学工学部同窓会総会・懇親会 於 ホテルパレスイン鹿兒島 平成27年3月7日

平成27年度 工学部同窓会拡大幹事会 議事録 (案)

日 時：平成27年8月21日(金)

17:00~18:10

場 所：ジェイドガーデンパレス

出席者：

本部 松永洋文会長、曾我和弘庶務幹事、
福原稔会計幹事、木村至伸編集幹事、山本
吉朗会計監事

機友会 高崎征忠会長、上谷俊平会計幹事、
中尾光博会計副幹事、小田美紀男編集幹事、
余永編集副幹事

錦水会 葉山勝年会長、淵田孝康庶務幹事、
重井徳貴編集幹事、川越明史会計幹事、池
田浩二様

A O I 会 武田敏郎会長、塩屋晋一庶務幹
事、二宮秀與会計幹事、増留麻紀子編集幹
事

南窓舎密会 染川賢一会長、吉留俊史庶務
幹事、満塩勝会計幹事、中島常憲編集幹事
しらなみ会 萩亮会長、山城徹庶務副幹事、
濱田成敏会計幹事、三隅浩二会計副幹事、
山中浩平編集幹事、宮園秀二様、宮本裕二
様、奥地栄祐様、事務員窪田玲子 計32
名

1. 会長あいさつ

○松永洋文同窓会会長よりあいさつ。

2. 平成26年度同窓会運営報告

1) 平成26年度行事および会議報告

○曾我庶務幹事より主だった内容の説明
がなされた。

2) 平成26年度本部会計決算報告

○福原会計幹事より一般会計の歳入、歳
出の説明がなされた。岩崎基金は支出
がない。岸園基金は岸園賞の該当がな
かったため司会に関する支出のみで
あった。

3) 会計監査報告

○山本学内会計監事より平成27年6月1
日の会計監査の結果、適正に処理され
ていた旨の報告がなされ

た。

1) ~ 3) までの質問事項はなし。

4) 同窓会名の第15号第2版発行報告

○木村編集幹事より発行部数、発行費に
ついての報告がなされた。修了生への
配布は他大学から博士課程への入学
(修了生)のみ配布している。

○名簿閲覧についての留意事項の説明が
なされた。

5) 会報南桜風13号の発行報告

○製本数、学内配布数、返送数の詳細の
報告がなされた。残部はオープンキャン
パス等で配布している。

○発行費に関して詳細の説明がなされ
た。

4)、5) について質問事項はなし。

3. 平成27年度同窓会運営計画

1) 平成27年度同窓会行事および会議報 告と計画

○曾我庶務幹事より本年度の概要の説明
がなされた。例年の行事を執り行う。

2) 平成27年度本部会計予算案

○歳入、歳出案の説明がなされた。岩崎
基金の支出計画はない。岸園基金は岸
園賞、司会の補助金の計画がなされて
いる。

3) 会費納入状況および本部・部会への 配分額

○今年度の現況の報告がなされた。前年
度より納入率が良い状況である。

○前期割当金の部会への配分額が説明さ
れた。

○前年度に関する入金がまとめて記載さ
れている。→見やすいように改善する。

2)、3) について質問事項はなし。

4) 会報南桜風14号発行計画

○印刷業者、発行部数、金額についての
説明がなされた。不明者調査も引き続
き行う。

○予算額が提示された。広告については
今まで実績のあった会社へ案内を送付
する。

5) 同窓会名簿第15号第3版発行計画

○印刷業者は契約が引き続いている(株) サラトへ依頼する。発行部数と予算額の説明がなされた。

4)、5) について質問事項はなし。

6) 工学部同窓会学生諸活動助成金について

○各学科1年間につき3万円まで助成を行う。申請には庶務幹事の押印が必要。満額の使用を勧める。

提出された報告書は会報にて紹介をする。

4. 各部会行事報告と計画

○機友会：福原稔庶務幹事、錦水会：瀧田孝康庶務幹事、AOI会：塩屋晋一庶務幹事、南窓舎密会：吉留俊史庶務幹事、しらなみ会：萩亮会長よりそれぞれの部会の平成26年度行事、27年度行事の報告がなされる。

5. 岸園賞 別紙資料有

1) 被推薦者の紹介

○本部からの推薦：大分県支部グループ(代表者：大石喬氏、和田正遠氏、三原久正氏)、機友会からの推薦：下茂忍氏の2件の推薦理由の説明がなされた。

2) 選考

○2件の推薦に、順位付けは不要であり、各被推薦者に対して、各部会が可否を投票する方針となった。

可が過半数(3票)以上であれば受賞者とする方針とした。その後、投票により2件ともに満場一致で受賞が決定した。2件の受賞は、工学部同窓会活動に尽力した者として高く評価されたことによる。

6. その他

1) 寄附について

○岸園家からの今までのご寄附の説明、今回のご寄附の説明が資料を基になされた。

○いただいた浄財に関しては、故岸園司元会長のご意志である「工学部の発展を」のお気持ちを汲み、今後時間をか

けて有効活用の方策を練っていくこととする。この後の司会にて奥様へ感謝状と記念品をお渡しする計画であることが告げられた。

2) 同窓会役員名簿

○各部会で変更があれば事務局へ連絡してもらおう。

以上

平成26年度会計報告

会計幹事 福原 稔(機械昭和56年卒)

平成27年度から3年間、本部会計幹事を担当させていただきます。宜しく申し上げます。同窓会本部の一般会計、岩崎基金、岸園基金について、別表に従って収支決算を報告させていただきます。

一般会計の主な収入は前年度繰越金(11,071,599円)と学部の新入生、編入学生等が入学時に納入する同窓会終身会費(20,000円/人×446人=8,920,000円)です。これらの収入に会報広告代、預貯金利息等を合わせて、歳入の合計金額は20,121,007円となりました。主な支出としては、各部会への終身会費の支払い(4,300,000円)、本部運営関連経費(1,299,042円)がありました。そのほかには、平成27年3月に開催した同窓会総会・懇親会関連経費(794,606円)、会報13号の発行費(2,314,344円)、平成26年度学部卒業生に配布した同窓会追録名簿(15号第2版)の発行費(632,840円)、役員会・評議会等運営費(79,619円)、同窓会連合会分担金(100,000円)、本部役員出張費(220,000円)、大分県支部総会補助費(50,000円)、同窓会本部部屋の借り受け金と工学部事務助成費(197,760円)、学生の諸活動助成費(203,500円)がありました。歳出の合計金額は10,191,711円でした。この結果、歳入から歳出を差し引いた9,929,296円を次年度へ繰り越すことになりました。

岩崎基金については、支出はなく、

15,875,184円を次年度へ繰り越すことになりました。岸園基金については、司会の開催費用（122,148円）を支出し、9,467,955円を次年度へ繰り越すことになりました。

鹿児島大学同窓会連合会だより

4月11日に城山観光ホテルにて総会、懇親会が開催された。平成26年度の活動報告、会計報告があり満場一致で承認された。また、今年度からの役員の承認がなされた。

<役員会・幹事会の主な協議内容>

- ・「進取の精神」支援基金について大学から同窓会への協力要請がなされた。
- ・会報は例年通りの発行。各支部、新入生に配布する。

<支部>

- ・平成28年2月福岡支部総会・懇親会「北辰斜の会」開催

平成26年度一般会計収支決算

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

| | |
|----------|------------|
| 歳入総額 | 20,121,007 |
| 歳出総額 | 10,191,711 |
| 差引残高 | 9,929,296 |
| 通帳1：郵便貯金 | 9,355,233 |
| 現金 | 574,063 |
| 合 計 | 9,929,296 |

(歳入)

| 項 目 | H26予算額 | H26決算額 | 差額 (注2) | H26決算の備考 |
|-----------------|------------|------------|------------|---------------------------|
| 前年度繰越金 | 11,071,599 | 11,071,599 | | (注1) |
| 本年度入学者納付金 | 9,180,000 | 7,780,000 | -1,400,000 | 389名×2万円 |
| 本年度外国人入学者納付金 | 20,000 | 20,000 | 0 | 1名×2万円 |
| 本年度編入学者納付金 | 220,000 | 240,000 | 20,000 | 12名×2万円 |
| 本年度博士課程入学者納付金 | 0 | 0 | 0 | 0名×2万円 |
| 以前の入学者納付金 | 120,000 | 820,000 | 700,000 | 41名×2万円 |
| 以前の編入・外国人・博士納付金 | 0 | 60,000 | 60,000 | 3名×2万円 |
| 小 計 | 9,540,000 | 8,920,000 | -620,000 | |
| 会報13号広告代 | 50,000 | 70,000 | 20,000 | |
| 総会残金 | 0 | 47,300 | 47,300 | |
| 預貯金利子 | 10,500 | 12,108 | 1,608 | 郵便普通988円、定額10,931円、鹿銀189円 |
| 合 計 | 20,672,099 | 20,121,007 | -551,092 | |

(注1) H26予算額の前年度繰越金11,071,599円=(H25歳入額)17,614,923円-(H25歳出額)6,543,324円

(歳出)

| 項 目 | H26予算額 | H26決算額 | 差額 (注2) | H26決算の備考 |
|-----------------------|------------|------------|-------------|-----------------------|
| <各部会割当金> | | | | |
| 機友会 | 1,010,000 | 670,000 | -340,000 | 79/99 編2 前3 |
| 錦水会 | 1,740,000 | 1,660,000 | -80,000 | 148/163 編5 外1 前博1 前13 |
| AOI会 | 600,000 | 520,000 | -80,000 | 46/59 編1 前外1 前編1 前8 |
| 南窓舎密会 | 930,000 | 670,000 | -260,000 | 73/89 編4 前3 |
| しらなみ会 | 550,000 | 650,000 | 100,000 | 43/49 前14 |
| 南翔会 | 0 | 0 | 0 | |
| 未納学生の退学・除籍の部会への返金 | 130,000 | 130,000 | 0 | 錦3、AOI 4、南窓2、しらなみ4 |
| 小 計 | 4,960,000 | 4,300,000 | -660,000 | |
| <本部運営関連> | | | | |
| 会長経費 | 40,000 | 40,000 | 0 | |
| 庶務経費 | 40,000 | 40,000 | 0 | |
| 会計経費 | 40,000 | 40,000 | 0 | |
| 編集経費 | 40,000 | 40,000 | 0 | |
| 事務員給与 | 950,000 | 973,200 | 23,200 | |
| 通信費 | 50,000 | 37,254 | -12,746 | 通帳手数料を含む |
| 事務費 | 200,000 | 128,588 | -71,412 | |
| 小 計 | 1,360,000 | 1,299,042 | -60,958 | |
| 同窓会総会・懇親会費 | 700,000 | 674,606 | -25,394 | 各部会へ補助・本部負担金等・講演会謝金 |
| 旅費補助 | 120,000 | 120,000 | 0 | 会長・大分支部長 |
| 小 計 | 820,000 | 794,606 | -25,394 | |
| 会報13号発行費 | 2,385,000 | 2,314,344 | -70,656 | |
| 追録名簿(15号第2版)発行費 | 650,000 | 632,840 | -17,160 | H26年度卒業生 |
| 役員会・評議会等運営費 | 150,000 | 79,619 | -70,381 | 連合会懇親会費含む |
| 鹿児島大学同窓会連合会分担金 | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| 本部役員出張旅費 | 450,000 | 220,000 | -230,000 | 大分県支部総会など |
| 大分県支部総会補助金 | 50,000 | 50,000 | 0 | 2,000円/人 |
| 不動産借り受け金 | 77,760 | 77,760 | 0 | 部屋代 |
| 工学部事務助成費 | 120,000 | 120,000 | 0 | 助成費 |
| 学生諸活動助成費 | 225,000 | 203,500 | -21,500 | 各学科諸活動、工学部体育祭 |
| 小 計 | 4,207,760 | 3,798,063 | -409,697 | |
| 慶弔費 | 100,000 | 0 | -100,000 | |
| 予備費 | 9,224,339 | 0 | -9,224,339 | |
| 小 計 | 9,324,339 | 0 | -9,324,339 | |
| 合 計 | 20,672,099 | 10,191,711 | -10,480,388 | |

(注2) 差額はH26決算額-H26予算額

平成26年度の歳入決算額20,121,007円-平成26年度の歳出決算額10,191,711円=9,929,296円を平成27年度へ繰り越す。

平成26年度岩崎基金決算
(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

| | |
|------|------------|
| 歳入総額 | 15,875,184 |
| 歳出総額 | 0 |
| 差引残高 | 15,875,184 |

| | |
|-------------|------------|
| 通帳① UFJ定期預金 | 10,000,000 |
| 通帳② UFJ普通預金 | 297,845 |
| 通帳③ みずほ定期預金 | 5,577,339 |
| 合計 | 15,875,184 |

(歳入)

| 項目 | H26予算額 | H26決算額 |
|-----------|------------|------------|
| 前年度繰越金 | 15,832,056 | 15,832,056 |
| UFJ定期預金利息 | 0 | 3,188 |
| UFJ普通預金利息 | 0 | 48 |
| みずほ定期預金利息 | 0 | 39,892 |
| 合計 | 15,832,056 | 15,875,184 |

(歳出)

| 項目 | H26予算額 | H26決算額 |
|----|--------|--------|
| 合計 | 0 | 0 |

差引残高15,875,184円を平成27年度へ繰り越す

平成26年度岸園基金決算
(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

| | |
|------|-----------|
| 歳入合計 | 9,590,103 |
| 歳出合計 | 122,148 |
| 差引残高 | 9,467,955 |

| | |
|-----------|-----------|
| 通帳①鹿銀普通預金 | 4,467,955 |
| 通帳②鹿銀定期預金 | 5,000,000 |
| 合計 | 9,467,955 |

* 郵貯より鹿銀へ移し替え

(歳入)

| 項目 | H26予算額 | H26決算額 |
|--------|-----------|-----------|
| 前年度繰越金 | 9,588,803 | 9,588,803 |
| 寄付金 | 0 | 0 |
| 利息 | 0 | 1,300 |
| 合計 | 9,588,803 | 9,590,103 |

(歳出)

| 項目 | H26予算額 | H26決算額 | 差額 |
|-------------|---------|---------|----------|
| 岸園賞 | 100,000 | 0 | -00,000 |
| 司(つかさ)会 補助金 | 150,000 | 122,148 | -27,852 |
| 合計 | 250,000 | 122,148 | -127,852 |

差引残高9,467,955円を平成27年度へ繰り越す

つかさかい 司会の報告

第4回^{つかさかい}司会は8月21日（金）ジェイドガーデンパレスにて開催されました。今回は工学部同窓会に多額のご寄附をくださり、この会の発足にも多大なるご支援・ご貢献をしてくださりました故岸^{つかさ}園^{のつかさ}司元工学部同窓会会長の奥様、岸園敏子様に来賓としてご臨席を賜りました。

会では岸園敏子様のご紹介の後、今までのご厚情へお礼を込めて、同窓会より感謝状と記念品を贈呈し感謝の意を表しました。歓談に入り会場の多くの方々と談笑されていた岸園敏子様も今回^{つかさかい}司会の様子をご覧になり、生前の岸園司元同窓会会長のご意向が反映されている会であると喜んでくださったご様子で、同窓会としてはこの会を含めた工学部のさらなる発展、地域への貢献も含めた飛躍こそがご期待に添えるものと気持ちを新たにす会となりました。

工学部に関係する方々に参加していただく司会(つかさかい)は、同窓生の枠を超え、研究内容の枠を超えての交流の場となっており、毎年恒例の会として少しずつ定着してきました。今後も岸^{つかさ}園^{のつかさ}司元同窓会会長のご遺志を受け、引き続き会が継続していくよう皆様のご協力、ご支援をお願いいたします。



平成27年 鹿児島大学工学部 同窓会 第4回司会 平成27年8月21日 於：ジェイドガーデンパレス

特別寄稿

「岸園敏子元会長奥様からの寄付金」について

本部庶務幹事 曾我 和弘

今年度、工学部同窓会は、岸園司元工学部同窓会会長奥様の岸園敏子様より、新たに多額のご寄付をいただきました。また、これまでの多年にわたるご支援に対する感謝の意を込めて、岸園敏子様に感謝状と記念品の贈呈を行いましたので、以下に、ご報告いたします。

H27年4月、工学部同窓会の会報13号（南桜風）をご覧になられた岸園敏子様から、工学部同窓会事務局宛に一通のお手紙を頂戴しました。そのお手紙の一部を以下にご紹介します。

「先日は会報13号をお送りいただきまして本当にありがとうございます。又このような素晴らしい南桜風に司会（つかさかい）のことまで取り上げて下さり、又、先生方の研鑽を深める場としても喜ばれておられるとのこと、主人も大変喜んでのことと思います。私も本当にうれしく思っております。心から感謝申し上げます。つきましては、あと少し寄付させていただきたいと思っておりますので、どうぞ活動に使って頂ければ幸いです。ますますのご活躍を心からお祈り申し上げます。」という、大変ありがたい直筆のメッセージをいただきました。

このお手紙の翌月のH27年5月、工学部同窓会は岸園敏子様から2000万円のご寄付をいただいた次第です。

故岸園司元会長は、「鹿大の発展を。工学部同窓会の発展を」と、強く願われ、H20年8月にご逝去されるまで、工学部同窓会会長として、工学部同窓会の活動を支えてくださいました。また、元会長のご逝去後は、奥様の岸園敏子様が、「鹿大の発展を。工学部同窓会の発展を」という元会長のご遺志を引き継がれ、工学部同窓会の活動にご理解を示されるとともに、大変多くのご寄付をくださいました。

最初は、岸園司元会長ご逝去の翌年H21年4月に、500万円のご寄付を奥様よりいただきました。また、H23年9月には、さらに500万円のご寄付をいただきました。今回（H27年5月）いただいたご寄付と合わせますと、これまでに合計3000万円のご寄付をいただいたこととなります。これらのご寄付は、現在、工学部同窓会の「岸園基金」となっております。

最初にいただいたご寄付のうち、250万円を原資とし、H22年には「岸園賞」が創設されることが決まり、翌H23年より受賞者の選考が始まりました。さらに、最初のご寄付の残りの250万円を原資とし、今村彬前工学部同窓会会長のご発案で、「司会」（つかさかい）

がH24年に創設され、H27年度で4回目の開催を迎えました。「岸園賞」とは、鹿児島大学工学部の名を高めた方、あるいは工学部同窓会活動に尽力した方を表彰するもので、寄付者の岸園氏のご遺志である「鹿大の発展を。工学部同窓会の発展を」という理念のもと、会員の表彰を重ねております。H27年度は、工学部同窓会活動に尽力された2件の受賞者が決定しました。

岸園敏子様よりいただいたご寄付が発端となり、岸園賞ならびに司会が創設され、さらに、これらが継続的に実施されることで、工学部同窓会の活動は、従来にもまして活性化しております。このような活性化のきっかけを与えてくださった岸園敏子様、あらためて感謝申し上げます。

以上のように、岸園敏子様は、故岸園司元会長のご遺志を引き継がれ、われわれ工学部同窓会の活動にご支援を続けてこられました。そこで、岸園様の多大なご支援に対する感謝の意を形にしたいと考え、H27年8月21日開催の「司会」の会場において、松永洋文工学部同窓会会長より、岸園敏子様へ感謝状と記念品の贈呈が行われました。

私どもは、いただいたご寄付を、岸園司元会長のご遺志を引き継ぎ、工学部と工学部同窓会の発展のために、有効活用させていただく所存です。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

工学部同窓会学生諸活動助成金報告

平成26年度・27年度

今年度も各学科が企画する活動に対して助成金を出し活動支援を行いました。

学 科：海洋土木工学科

企 画：平成27年鹿児島大学海洋土木工学科1・2年生の懇親会に対する意見交換会

活 動 日：平成27年3月16日

活動場所：海洋土木工学科2階自習室(39名)

事業報告：新B1生との懇談会に対する意見交換会ということで、急な日程調整にも関わらず、新B2生の参加



率が良かった。学部生からの積極的な意見も出てきて、活発な意見交換会ができた。学部生から挙げられたいくつかの意見を参考に、今後開催予定の親睦会の一案として積極的に考慮していきたい。また、学生相談員と学部生が交流する機会も年間を通して少ないため、今回このような場が定期的に催すことができると感じた。反省点として、学生相談員の準備の動きが悪かったことが挙げられる。よって、明確な計画案を作成し、会の目的や内容を主催者側（学生相談員）全員に早めの周知をする必要がある。今回の意見交換会を参考に、今後より良い会が開催できるようにしたい。(森岩寛稀^{もりいわもと})

学 科：化学生命工学科

企 画：環境プロセス・化学生命工学ソフトボール大会

活 動 日：平成27年6月14日

活動場所：鹿児島大学教育学部グラウンド（約120名）

事業報告：活動日に大雨が降ってしまい開催が不可能となりました。延期にしようと考えましたが翌月や翌々月のグラウンド予約が不可能であったこと、各研究室の日程を考慮し今回は中止となりました。助成金は優勝賞品や大会運営費等に使用させていただき、使用した残りのお金を返金しました。(吉川貴之^{よしかわたかゆき})

学 科：電気電子工学科

企 画：第46回電気電子工学科バトミントン大会

活 動 日：平成27年11月7日

活動場所：教育学部 第2体育館（50名）

事業報告：助成金をいただいたおかげで、参加者の負担もなく開催することができ、大変助かりました。今後も同企画を行っていきたいと考えています。(秋山祐一郎^{あきやまゆういちろう})



学 科：建築学科

企 画：建築学科1年生と教員の懇親会

活 動 日：平成27年10月27日

活動場所：教育学部食堂エデュカ（99名）

事業報告：建築学科1年生と教員、TA、または1年生同士が懇親を深めた会になりました。

1年生は先生方から建築に対する心構えや将来に向けてのアドバイス等をいただき、それをしっかりと受け止めていました。また、1年生同士がお互いを知ることができた良い機会となりました。(安東迪代^{あんどうみちよ})



学 科：海洋土木工学科

企 画：平成27年度鹿児島大学工学部海洋土木工学科全学年対象の意見交換会

活 動 日：平成27年11月20日

活動場所：中国酒家 広東（48名）

事業報告：教職員、学生の意見交換を目的として食事会を開催した。先生方、大学院生には学部1～4年生の学生へのアドバイスを積極的に行っていただけるよう座席を配慮した。全学年を対象とした意見交換会は本学科初めての試みであり、普段教理を感じがちな先生方、先輩方に講義におけるアドバイスから学生生活の過ごし方まで気軽に話すことができたという意見ももらえた。来年度以降も、このような機会が継続的に開催され、学科の恒例行事と呼ばれるものになって欲しいと願う。^{はたなかゆうせい}（畠中優成）



学 科：環境化学プロセス工学科

企 画：環境化学プロセス・化学生命工学科ソフトボール大会

活 動 日：平成27年12月6日

事業報告：教育学部グラウンド（90名）

編集後記

本部編集幹事・木村 至伸

ここに工学部同窓会会報“南桜風”第14号をお届けいたします。

平成27年度より執行部が新体制となり、会報第14号の発行が新編集部会としての初仕事となりました。会報第14号では、各学科・専攻の近況や工学部同窓会を構成する各部会の活動状況などの紹介に加えて、岸園司元工学部同窓会会長奥様 岸園敏子様からの新たなご寄附に関する特別寄稿も掲載しておりますので、ご一読いただければと思います。

また、編集部会の重要な事業として名簿発行があります。名簿第16号の発行は平成28年度の予定でしたが、平成32年の工学部75周年事業に合わせて発行することとなりました。同窓会員の皆様には、新名簿を発行できずご不便をお掛けしていること心よりお詫び申し上げます。新名簿発行に向け、現在の判明率を向上させるよう努めてまいりますので、住所不明者の情報や住所変更など、同窓会本部もしくは各部会にご連絡頂きますようお願い致します。

機友会編集幹事・小田 美紀男

今年度は会報の作成をスムーズに行うことが出来ました。これは偏に、原稿の執筆をして頂いた各支部及び本部の方々や学生のご協力によるもので、深くお礼を申し上げます。機友会の場合は、卒業生ではない教員が数年で幹事が交代します。私は今年度で、編集幹事を交代しますが、新しい編集幹事への引き継ぎをしっかりと行い、同窓会の活動に支障が無いように努めます。

錦水会学内編集幹事・重井 徳貴

記事を執筆いただきました、各支部の支部長、幹事の皆様、ありがとうございます。部会だよりでは、各支部の活動状況を中心に紹介いたしました。通常の支部総会の話題以外に、工場見学の学生との交流会、浜松での支部総会のサテライト開催などの話題がありました。この他に、会員の皆様からご寄稿いただいた同期会などの話題をホームページ(<http://kinsuikai.sakura.ne.jp/>)に掲載しておりますので、こちらもご覧ください。

AOI会編集幹事・増留 麻紀子

会報作成にあたり、各支部の担当者の皆様、同窓会本部の皆様のおかげで無事役目を終えることができました。改めてお礼申し上げます。今年度より初めて編集幹事を担当させて頂きましたが、作業を通し各方面のOB・OGの皆様とご縁をいただきましたことに心より感謝申し上げます。来年度は、建築学科棟の全面改修も竣工、学科のHPもリニューアルし、心機一転の年度となります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

南窓舎密会編集幹事・中島 常憲

南窓舎密会の母体である、環境化学プロセス工学科、化学生命工学科において、H27年度は、新たに2名の先生をお迎えして運営していくことになりました。現役会員の各行事への参加の活性化など改善すべき点があり、卒業生の皆様方よりお知恵を拝借しつつ、南窓舎密会を盛り上げていきたいと思っております。最後に、原稿等の執筆にご協力いただきました皆様へ感謝申し上げます。

しらなみ会学内編集幹事・酒匂 一成

しらなみ会のホームページを作成し、本部・支部の活動報告、イベント情報などを随時掲載しております。掲載情報などございましたら、ご連絡ください。よろしく申し上げます。

考える、つくる、人のためになる。



多くの人に使われている 信頼と安心のエネルギーを、 あなたの暮らしにも。

京セラは、エネルギーを「つくる」太陽光発電システムのパイオニア。
ドイツの国際機関の試験で、出力が低下しないと認められ、30年以上の稼働記録を更新中。確かな技術力と長期信頼性で、多くの人に選ばれ続けています。

また、「エネルギー」を「ためる」リチウムイオン蓄電システムは、業界No.1の大容量。夜も、雨の日も、もしもの時にも安心です。

さらに、独自のホーム・エネルギー・マネジメント・システムで自由なコントロール。「賢くつかう」スマートライフを実現しています。

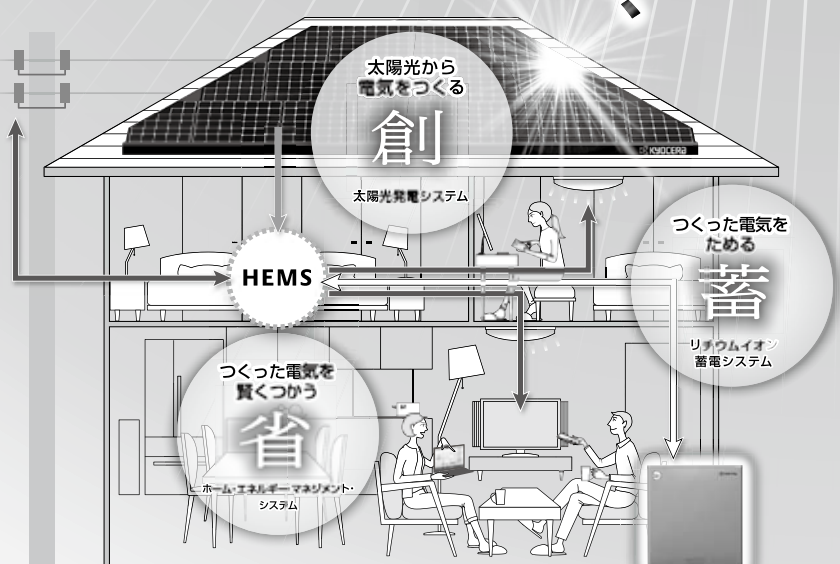
もっと経済的に、もっと安心できる暮らしのために。

京セラは、技術力でエネルギーを変えていきます。

※1 フランホファー研究機構が、世界の主要13製品に対して実施した耐PID試験による。
※2 佐倉ソーラーエネルギーセンター千葉県において。
※3 住宅用太陽光連検型蓄電池において、1ユニットの場合、2015年5月末現在（京セラ調べ）



優希美青 (ゆうき みお)



京セラは、技術力でエネルギーを変える。



京セラ株式会社

Smile for you

— 総合建設業 —



株式会社 **和田組**

和田 正遠 (建築 昭和 25 年卒)

大分 本社
〒874-0919
大分県別府市石垣東 10 丁目 3 番 40 号
TEL 0977-25-1221 FAX 0977-21-3825

東京 支店
〒160-0023
東京都新宿区西新宿 4 丁目 21 番 16 号新宿ニューハウジング 1F
TEL 03-6276-8948 FAX 03-6276-8958

URL : <http://www.wadagumi.com>

E-mail : wadagumi@wadagumi.com

■建築塗装工事 ■防水工事 ■外壁調査・改修工事 ■鋼構造物塗装工事 ■コンクリート構造物改修工事

おかげさまで創業85年
— 地域と人を塗装でつなぐ —



(平成25年 鹿児島大学 学習交流プラザ新築工事 施工協力)



株式会社 **ハマテックス** (旧 木場塗装)

代表取締役社長 濱園 誠 (海洋 平成13年)

〒891-0131 鹿児島市谷山港1丁目3-34 TEL099-261-8400 / FAX099-262-1022

HP <http://hamts.jp>

鹿児島大学工学部同窓会における個人情報に関する基本

プライバシーポリシー

新たに皆様から頂く個人情報及び従来から本会で保有しております個人情報につきましては、個人情報保護法に従い下記のように取り扱います。

1. 個人情報の収集・利用目的

本会では以下の情報を収集いたします。

①名前、②自宅住所、③電話番号、④勤務先、⑤勤務先電話番号、⑥電子メール

2. 個人情報の利用目的

収集した情報は次に掲げる目的で利用いたします。

- (1) 卒業生データの作成・管理を目的とするもの
- (2) 総会等運営のために必要な文書等の送付を目的とするもの
- (3) 会報、名簿および各種お知らせ等の送付を目的とするもの
- (4) 大学への情報提供を目的とするもの

3. 委託先および第三者提供先

この文書に定める利用目的に関連して、機密保持契約を締結した委託先に会員等の個人情報を提供する場合は、適格性を十分に審査し、本会が求める個人情報保護体制を維持できるように管理・監督いたします。

4. 安全管理措置

本会は、この文書で定める事項に適用するように収集した個人情報を安全に取り扱い、不正アクセス、紛失、改ざんまたは遺漏が生じないよう適切な措置を講じます。すでに配布された名簿はシリアルナンバーによって管理されており、第三者が利用した場合はそのシリアルナンバーより所有していた卒業生が判明しますので、取り扱い等には十分に留意してください。

5. 個人情報の開示・訂正・利用の停止等の申し出先

本人が当該本人に関する個人情報の開示・訂正・追加・利用停止の請求ならびに個人情報の取り扱いに関する問い合わせを行う場合の連絡先は以下の通りです。

鹿児島大学工学部同窓会事務局

〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21-40

T E L 099-285-3494

F A X 099-285-3494

E-MAIL : dousoukai@eng.kagoshima-u.ac.jp

同窓会ホームページ <http://ku-eng.mydns.jp>

同窓会事務局開局日：月・水・金（10時～17時）



Faculty of engineering
Kagoshima university